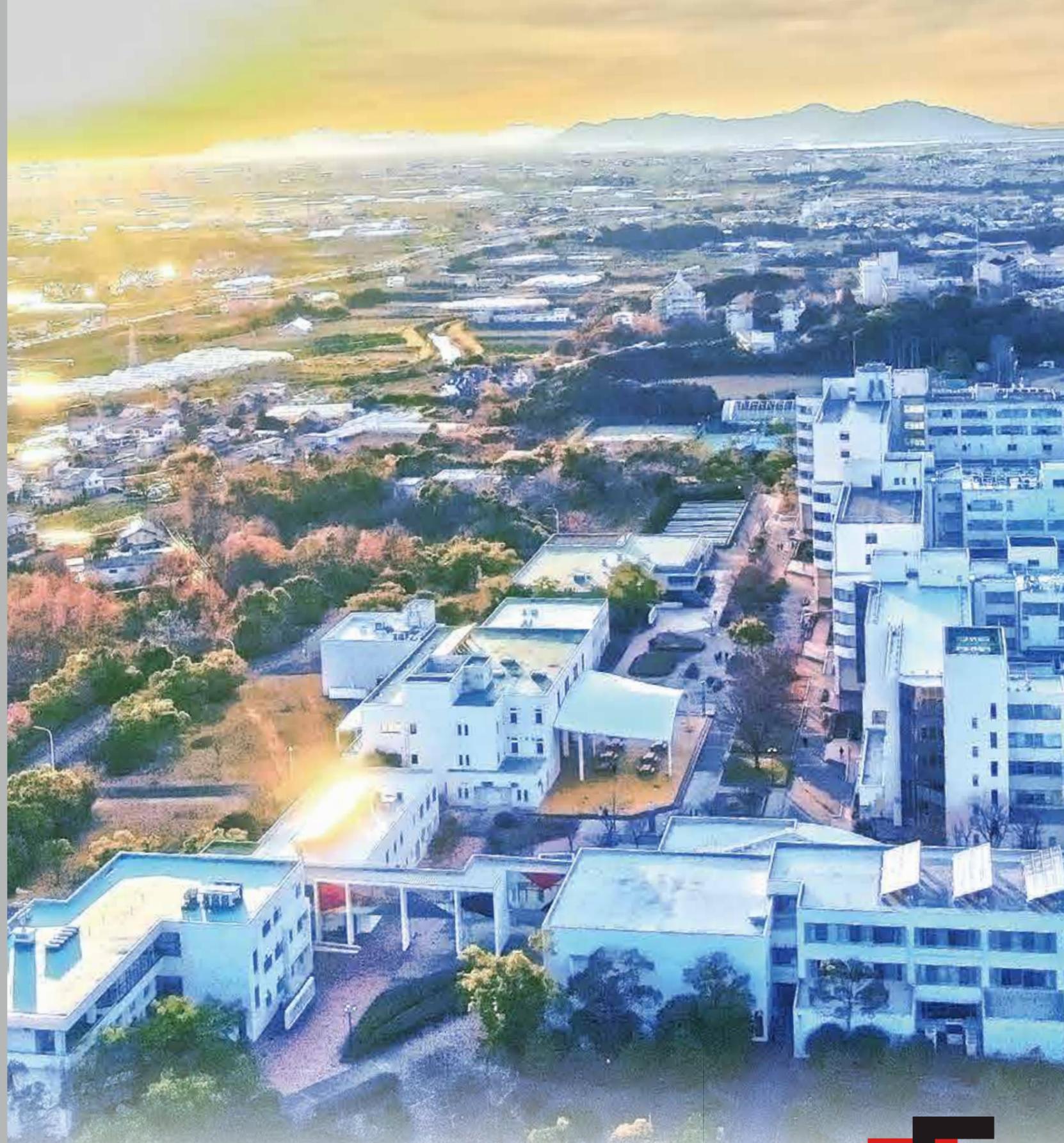


# 大学概要

## 2021-2022



技術を究め、技術を創る

国立大学法人

豊橋技術科学大学

TOYOHASHI  
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

編集・発行：豊橋技術科学大学 広報戦略本部

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1  
TEL: 0532-44-6506 FAX: 0532-44-1270

<https://www.tut.ac.jp/>



国立大学法人

豊橋技術科学大学

TOYOHASHI  
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

# 技術を究め、技術を創る。

## ● 基本理念

豊橋技術科学大学は、技術を支える科学の探究によって新たな技術を開発する学問、技術科学の教育・研究を使命とします。この使命のもと、主に高等専門学校卒業生及び高等学校卒業生等を入学者として受け入れ、大学院に重点を置き、実践的、創造的かつ指導的技術者・研究者を育成するとともに、次代を切り拓く技術科学の研究を行います。さらに、社会的多様性を尊重し、地域社会との連携を強化します。これらを通じて、世界に開かれたトップクラスの工科大学を目指します。



国立大学法人  
豊橋技術科学大学

## 学章

開学20周年を機に、本学学章の公募が行われ、応募作品の中から選ばれたものです。この学章は、本学のイニシャル「T.U.T.」をモチーフに、実践的技術の研究、開発をする学生の独創的な姿をウェブでエネルギーギッシュに表現しています。

## Contents

基本理念 学章・コミュニケーションマーク	02
学長挨拶	04
TUTプラン2021	04
沿革・歴代学長・名誉教授	06
学内組織	08
組織図	08
役職員の紹介／役職員等一覧	10
豊橋技術科学大学の特色	12

次代を拓く 高度技術者育成プログラム	14
研究組織概要	15
施設紹介	18
機構・研究所・ 共同利用教育研究施設	20
大学のキャンパス	24

データ集	26
学生数等の状況	26
産学官・地域交流	31
国際交流	32
大学の財政	33
大学の広報活動	34
アクセス	35



国立大学法人  
豊橋技術科学大学

## コミュニケーションマーク

形状は、「豊橋」「技術」の頭文字である2つの「T」を赤と黒で配色し、構成しています。赤は「基礎」や「人間力」を、黒は「専門」や「技術力」を意味しています。これらがしっかりと重なり合うことで太い幹となり、世界の産業を支えていく力強い人材が育っていくことを表現しています。

# 世界トップクラスの工科系大学を目指して —社会に貢献し元気な大学を作る—



学長 寺嶋 一彦  
Terashima, Kazuhiko

## Profile

1982年京都大学大学院博士課程修了。工学博士。  
1994年4月 豊橋技術科学大学 教授  
2012年4月 同 副学長（～2018年3月）  
2018年4月 同 理事・副学長（～2020年3月）  
2020年4月 同 学長

豊橋技術科学大学は、最高レベルの教育と研究を通じて社会に貢献します。思考と表現の自由、あらゆることに積極的に取り組む精神を涵養するとともに、物事を、短期的だけでなく長期的に、一面的でなく多角的・全面的に、枝葉末節でなく根本的に見る広い視野と未来を透徹した眼を持ち、技術科学の新しい地平を切り拓く社会に役立つ人材を育成します。

本学は、技術を科学的に解明し、さらに高度な技術の開発や技術の体系化を創生する学問「技術科学」の教育・研究を使命として設立されました。社会的多様性を尊重し、地域社会や産業界との連携を強化しながら、モノづくりの得意な学生を受入れ、従来の専門分野に加え、今後、センシング、IoT/AI、ロボットなど横断的かつ先進的なサイバー・フィジカル・システム(Cyber Physical Systems:CPS)教育を益々強化し、本学は実用化研究や社会実装化において世界トップクラスの工科系大学を目指して精進しております。

設立以来の活動を更に発展させるため、5つの挑戦を内容とした“TUTプラン2021”を作成しました。これに加え、本学は、スーパーグローバル大学創成支援事業の実施校としてDX化を進め、オンラインと対面の最適なハイブリッド方式により、今後も留学生の積極的な受入れと学生の海外派遣など、コロナ禍のニューノーマル時代においてもグローバル化を進展させていきます。また、安全・安心な社会の形成に向けて世界の人々が共通に抱える課題への対処を通じて「持続可能な開発目標(SDGs)」に積極的に取り組みます。

未来を切り拓くイノベーション人材を育成するには、理工系の知識に加えて、社会科学や人文科学などのリベラルアーツ教養教育が重要です。本学では学部から大学院にわたりこれらの教育を行っています。リベラルアーツは、文理分野にかかわらず、全ての分野の原点であり、技術科学の基礎・応用の創造的な発想につながっていくと考えられます。また、高専連携、国際連携、産学連携、課外活動を積極的に推進・支援しており、豊かで逞しい人間力を持った人材育成に力を入れております。

さて、大学の活動源は学生や教職員です。学生や教職員が、夢や希望の実現、また勉強・仕事の目標の達成に向かって日々元気に活動できるよう、大学の環境整備には最大限の努力をしております。

本学は、地元へ根差した地域連携・地域貢献をするとともに、国際・国内ネットワークを通じて、世界の様々な所との連携により、イノベーションを創出し、技術科学で世界を変革していく、社会に貢献する大学を目指しています。最後になりますが、皆様の変わらぬご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

## TUTプラン2021

本学は、主に高等専門学校卒業生及び高等学校卒業生等を入学者として受入れ、技術を支える科学の探究によって新たな技術を開発する学問、「技術科学」の教育・研究を使命とします。この使命のもと、大学院までの一貫教育により実践的、創造的かつ指導的技術者・研究者を育成するとともに、次代を切り拓く技術科学の研究を行います。また産業界や国際連携により技術科学で世界を変えていく実用化研究や技術の社会実装化を目指す研究を行い、地域・社会や産業界に貢献し、世界のトップクラスの工科系大学を目指します。さらに、コロナ禍後のニューノーマルの時代に向けた教育環境のデジタル・トランスフォーメーション(DX)化を推進すべく、対面とオンラインを最適に融合する講義環境の情報技術(IT)化やサポート体制の拡充を図り、学生にとっての豊かなコミュニティ形成の場を与えるキャンパスを構築します。

### 5つの挑戦

**挑戦 1 コロナ禍の時代における多文化共生・グローバルキャンパスの創出**  
国籍、民族、性別を超えて、皆が学び合う活気あふれるキャンパスを実現するために、オンラインと対面の場を最適に組み合わせ、学生、教職員、地域の人々が安全・安心で活発に交流できるコミュニティの場を創ります。

**挑戦 2 技術科学教育によるイノベーション創出人材育成**  
技術の修得とそれを支える科学を探究することにより、技術のさらなる高度化と体系化を推進するとともに、イノベーションを創出できる人材を育成します。

**挑戦 3 フラグシップ研究、コアコンピタンスの確立による研究力の強化**  
多様な研究への活動支援による研究分野の裾野の拡大とともに、センサ・半導体、知能ロボット、IT農業などを代表とする、サイバー・フィジカル・システム(CPS)に関連する研究をフラグシップ研究として推進します。さらに、異分野融合の研究による実用化や社会実装化をコアコンピタンスとして確立し、世界トップクラスの工科系大学を目指します。

**挑戦 4 持続可能な社会の形成に資する技術科学の推進**  
持続可能な開発目標を考慮した、ニューノーマル時代の安全・安心な社会の形成に資する、エネルギー、マテリアル、及びヒューマン・ソーシャル・サイエンスに関する技術科学を推進します。

**挑戦 5 魅力ある人事システムによる若手人材・女性教員育成と、教育・研究力の向上**  
テニュアトラック制と人事のスピード化、学長裁量ポストの活用、エレクトロニクス先端融合研究所(EIIRIS)と系の若手研究者の人事交流、若手人材・女性教員の戦略的採用及び育成により、教職員全体の活力を向上させ、教育・研究力を向上させます。

### 2021年度重点実施項目

本学は、国連アカデミック・インパクトのメンバーとして、コロナ対策、カーボンニュートラル等の人類社会全体の共通課題に対し、CPSや異分野融合の研究により「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献し、新しい価値の創造を目指します。

#### 高専連携・教育

高専専攻科と本学のカリキュラムを結び付けた「連携教育プログラム」を基盤として、高専及びその近隣立地企業との共同研究を推進し、教育と研究の連携を一層強化します。

#### 研究

研究大学強化促進事業を展開し、企業との共同研究の推進、EIIRISの強化、並びに研究推進アドミニストレーションセンター(RAC)の拡充を図ります。

#### 国際化・教育

バイリンガル講義、海外実務訓練、海外協定校を含む海外諸大学との連携、海外での研究や実務経験者の登用、ダブル・マルチディグリープログラム、マレーシア海外拠点の活用等を進め、更なる国際化を目指します。

#### 大学運営

若手教員、女性教員、外国人教員登用を更に進めるとともに、あらゆる差別やハラスメントに反対する意識を高め、ダイバーシティ社会に対応できる大学を構築するとともに、国立大学経営改革促進事業を推進し、大学の経営基盤を強化します。

#### 学生支援

学生の情操教育や人間力向上を目指し、部活動や地域活動など課外活動を更に支援し、学生の積極的な参加を促す取組を進めます。

#### ニューノーマルに向けての取組

DX化の推進、活力あるキャンパスライフの環境整備により、入学しやすくなる大学の構築を目指して、安全・安心・快適なコミュニティの場を創ります。

### 推進する活動

#### 教育の展開

- 長期インターンシップを特徴とし、高専教育に連続させて基礎と専門を積み上げる「らせん型教育」の充実による技術科学力の強化
- 数理・データサイエンス教育の全学部学生への展開による、数理的な思考力と技能を兼ね備えた高度技術者・人材の育成
- スーパーグローバル大学創成支援事業による「グローバル技術科学アーキテクト養成コース(GAC)」の実施
- 英日バイリンガル講義、海外実務訓練等のグローバル化教育の推進
- 国立大学経営改革促進事業を推進し、グローバルリベラルアーツ教育の充実による世界で通用する人間力の強化と、起業家マインドを持った人材を育成する技術経営MOT教育とアントレプレナーシップ教育の強化

#### 高専との連携

- 高専専攻科との「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」の推進、高専及びその近隣立地企業との共同研究の促進等の、高専連携の強化
- 「高専連携推進センター」における、高専との多彩な交流・連携・協働事業の強化
- 教員の研修、教育課程の改善、高専卒業生の継続教育などの有機的連携
- 三機関(本学、長岡技科大、高専機構)連携事業で構築した連携を基に、その後継となる国立大学経営改革促進事業によるさらなる連携の発展・拡充により、グローバルに活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者育成への取組を展開

#### 世界展開・連携

- グローバル戦略本部における世界展開・連携のため戦略の具体化
- グローバルネットワーク推進センターにおける国内外及び学内ネットワーク構築強化を通じた高等教育機関間のグローバル連携・交流の推進
- 海外実務訓練派遣や国際共同研究等による、重層的なグローバル人材循環の推進
- 外国人卒業生のフォローアップと海外同窓生などのネットワークの強化
- 大学の世界展開力強化事業、ダブル・マルチディグリー等による、留学生の積極的な受入れ、学生の海外派遣の推進

#### 研究の展開

- 「技術科学イノベーション研究機構」における、先端融合研究創成分野や実践的技術分野の推進
- 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)の推進
- 先端共同研究ラボラトリーによる世界トップクラスの研究の推進
- EIIRISの強化による異分野融合研究の推進とフラグシップ研究の支援による実用化研究・社会実装化研究に強いコアコンピタンスの確立
- 共同研究講座による社会実装化研究の推進
- 研究力強化のための教員の多様な研究活動の支援による研究力の底上げと、時代の変化に対応できる研究分野の裾野の拡張、及びRACの拡充による研究力強化
- 若手研究者支援、研究費獲得支援、共同研究による基盤研究力強化

#### 産学連携

- RACを介し、企業等と組織対組織を基本とした「機関連携型共同研究」の推進
- 異分野融合イノベーション研究の推進
- 産学連携を加速化しやすい環境整備としてのリスクマネジメント体制の強化

#### 社会との連携

- 産業界、高専、長岡技科大と協働する、国立大学の経営改革を目指す事業へのチャレンジ
- 「社会連携推進センター」における、地方創生・社会貢献のさらなる推進
- 社会人向け実践教育プログラムの充実によるリカレント教育の推進と、豊かで持続可能な「地域の未来」創生への貢献
- 地域の産学官が連携する「社会人キャリアアップ連携協議会」や「東三河協議会」との連携による地域プラットフォームの構築

### 支える環境

#### 組織の運営

- 管理運営体制の合理化による教育研究の充実
- 教員の教育研究意欲を高める年俸制度・報奨制度の促進
- 寄附収入の増加に向け、基金の受入れ・運営体制を強化
- 女性教員の更なる登用など、男女共同参画推進の実践
- 海外での研究や実務の経験者、外国人教員の登用
- 研究力に優れた若手教員が能力を発揮できる人事制度の構築と環境整備
- IRデータを活用した戦略的大学運営(財務、教育、研究)の実施
- 外部資金や新たな自己収入獲得事業による財務基盤の強化
- ジェンダー、障がいの有無、国籍などを問わないダイバーシティ社会において、活躍できる環境、支援制度の充実と、ダイバーシティ推進センターの設立
- ポストコロナ社会に対応できる、新しい大学の運営の実施と強化

#### ニューノーマルに向けての教育研究、学生支援環境の整備

- 設備・キャンパスマスタープランに基づき、学生・教職員の要望を取り入れた、教育・福利厚生環境の整備とキャンパスの国際化
- 弓道場の整備やロボコン工作機械の新調など、学生の課外活動への積極的

- な参加を促す取組の推進
- ウィズコロナ時代における安全と安心を確保した上での、心と身体の健康を増進する課外活動等への取組の支援と、明るいキャンパスの実現
- あらゆる差別やハラスメントのないキャンパスの実現に向けた取組の推進
- TUTグローバルハウス、附属図書館やマレーシア海外拠点を活用した、学内外の多文化共生・グローバルキャンパス化の展開
- 家計の影響を受けず、勉学の機会を提供できる経済支援の充実

#### 研究不正、研究費不正使用への対応

- 研究活動、研究費使用等に関するガイドラインへの対応
- 教員、学生に対する研究倫理教育の実施、充実

#### 保護者・同窓生との連携

- 卒業生連携室における、同窓会と連携した卒業生との相互支援関係の構築
- 保護者・同窓生の方々が気軽に立ち寄り、活発な交流の場となるキャンパスの実現

沿革

歴代学長

歴代学長

- 1974年 4月11日 1974年度予算で技術科学大学院(仮称)の豊橋市設置が決定
- 1976年 5月25日 国立学校設置法の一部を改正する法律(1976年法律第26号)の施行により、豊橋技術科学大学の新設公布
- 10月 1日 豊橋技術科学大学開学、初代学長に榊 米一郎を発令
- 1977年 4月18日 工学部にエネルギー工学課程、生産システム工学課程、電気・電子工学課程、情報工学課程、物質工学課程、建設工学課程の6課程を設置
- 1978年 4月 1日 語学センター設置
- 4月24日 第1回入学式を挙行
- 1979年 4月 1日 体育・保健センター設置
- 1980年 4月 1日 大学院工学研究科修士課程にエネルギー工学専攻、生産システム工学専攻、電気・電子工学専攻、情報工学専攻、物質工学専攻、建設工学専攻設置、技術開発センター設置
- 1981年 4月 1日 分析計測センター、計算機センター、廃棄物処理施設設置
- 1982年 4月 1日 工作センター設置
- 1984年 4月 1日 第2代学長に本多 波雄を発令
- 1986年 4月 1日 大学院工学研究科博士後期課程に材料システム工学専攻、システム情報工学専攻設置
- 1987年 4月 1日 大学院工学研究科博士後期課程に総合エネルギー工学専攻設置
- 1988年 4月 1日 工学部に知識情報工学課程を設置
- 10月 1日 計算機センターを情報処理センターに名称変更
- 1990年 4月 1日 第3代学長に佐々木 慎一を発令
- 1991年 4月 1日 大学院工学研究科修士課程に知識情報工学専攻設置
- 1993年 4月 1日 工学部にエコロジー工学課程を設置
- 1995年 4月 1日 大学院工学研究科博士後期課程を再編成し、機械・構造システム工学専攻、機能材料工学専攻、電子・情報工学専攻、環境・生命工学専攻設置
- 1996年 4月 1日 第4代学長に後藤 圭司を発令
- エネルギー工学課程、エネルギー工学専攻をそれぞれ、機械システム工学課程、機械システム工学専攻に名称変更
- マルチメディアセンター設置
- 1997年 4月 1日 大学院工学研究科修士課程にエコロジー工学専攻設置
- 1998年 4月 1日 未来技術流動研究センター設置(～2010年3月31日まで)
- 2000年12月 1日 大学院工学研究科修士課程英語特別コース受け入れ開始
- 2001年 4月 1日 工学教育国際協力研究センター設置
- 2002年 4月 1日 第5代学長に西永 頌を発令
- 留学生センター設置
- 9月25日 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー設置
- 2004年 3月10日 インキュベーション施設設置
- 4月 1日 国立大学法人豊橋技術科学大学設立
- 12月 1日 未来ビークルリサーチセンター設置
- 2005年 4月 1日 研究基盤センター設置(技術開発センター、分析計測センター、工作センターを統合)
- 情報メディア基盤センター設置(情報処理センター、マルチメディアセンターを統合)
- インテリジェントセンシングシステムリサーチセンター設置(～2012年3月31日まで)
- 地域協働まちづくりリサーチセンター設置
- 未来環境エコデザインリサーチセンター設置(～2008年3月31日まで)
- 2006年10月 1日 先端農業・バイオリサーチセンター設置
- 先端フォトニック情報メモリリサーチセンター設置
- 12月 1日 メディア科学リサーチセンター設置(～2009年11月30日まで)
- 2008年 4月 1日 第6代学長に榊 佳之を発令
- 2009年10月 1日 先端フォトニック情報メモリリサーチセンターをナノフォトニクス情報テクノロジーリサーチセンターに改編(～2012年3月31日まで)
- 12月 1日 エレクトロニクス先端融合研究センター設置(～2010年9月30日まで)
- 2010年 4月 1日 工学部、大学院工学研究科博士前期課程を再編(機械工学課程/専攻、電気・電子情報工学課程/専攻、情報・知能工学課程/専攻、環境・生命工学課程/専攻、建築・都市システム学課程/専攻)
- 国際交流センター設置(語学センター、留学生センターを統合)



初代学長

榊 米一郎



第2代学長

本多 波雄



第3代学長

佐々木 慎一



第4代学長

後藤 圭司



第5代学長

西永 頌



第6代学長

榊 佳之

- 10月 1日 人間・ロボット共生リサーチセンター設置
- エレクトロニクス先端融合研究所設置
- 2011年 4月 1日 未来ビークルリサーチセンターを未来ビークルシティリサーチセンターに改編
- 地域協働まちづくりリサーチセンターを安全安心地域共創リサーチセンターに改編
- 2012年 4月 1日 大学院工学研究科博士後期課程を再編(機械工学専攻、電気・電子情報工学専攻、情報・知能工学専攻、環境・生命工学専攻、建築・都市システム学専攻)
- 2013年10月 1日 機構見直しにより、グローバル工学教育推進機構設置
- 国際協力センター、国際交流センター、国際教育センター設置(工学教育国際協力研究センター、国際交流センターの再編)
- 12月 1日 研究推進アドミニストレーションセンター設置
- 12月 4日 マレーシア教育拠点設置
- 2014年 4月 1日 第7代学長に大西 隆を発令
- 体育・保健センターを健康支援センターに改編
- 2016年 4月 1日 機構見直しにより、技術科学イノベーション研究機構設置
- 社会連携推進センター設置
- 高専連携推進センター設置
- 研究基盤センターを教育研究基盤センターに名称変更
- 2018年 4月 1日 グローバル工学教育推進機構を再編し、グローバル工学教育推進センター設置(国際協力センター、国際交流センター、国際教育センターの再編)
- 2019年 4月 1日 環境・生命工学課程、環境・生命工学専攻をそれぞれ、応用化学・生命工学課程、応用化学・生命工学専攻に名称変更
- 2020年 4月 1日 第8代学長に寺嶋 一彦を発令
- 2021年 4月 1日 グローバル工学教育推進機構を廃止し、グローバル工学教育推進センターをグローバルネットワーク推進センターに改編
- 学生支援センター設置



第7代学長

大西 隆



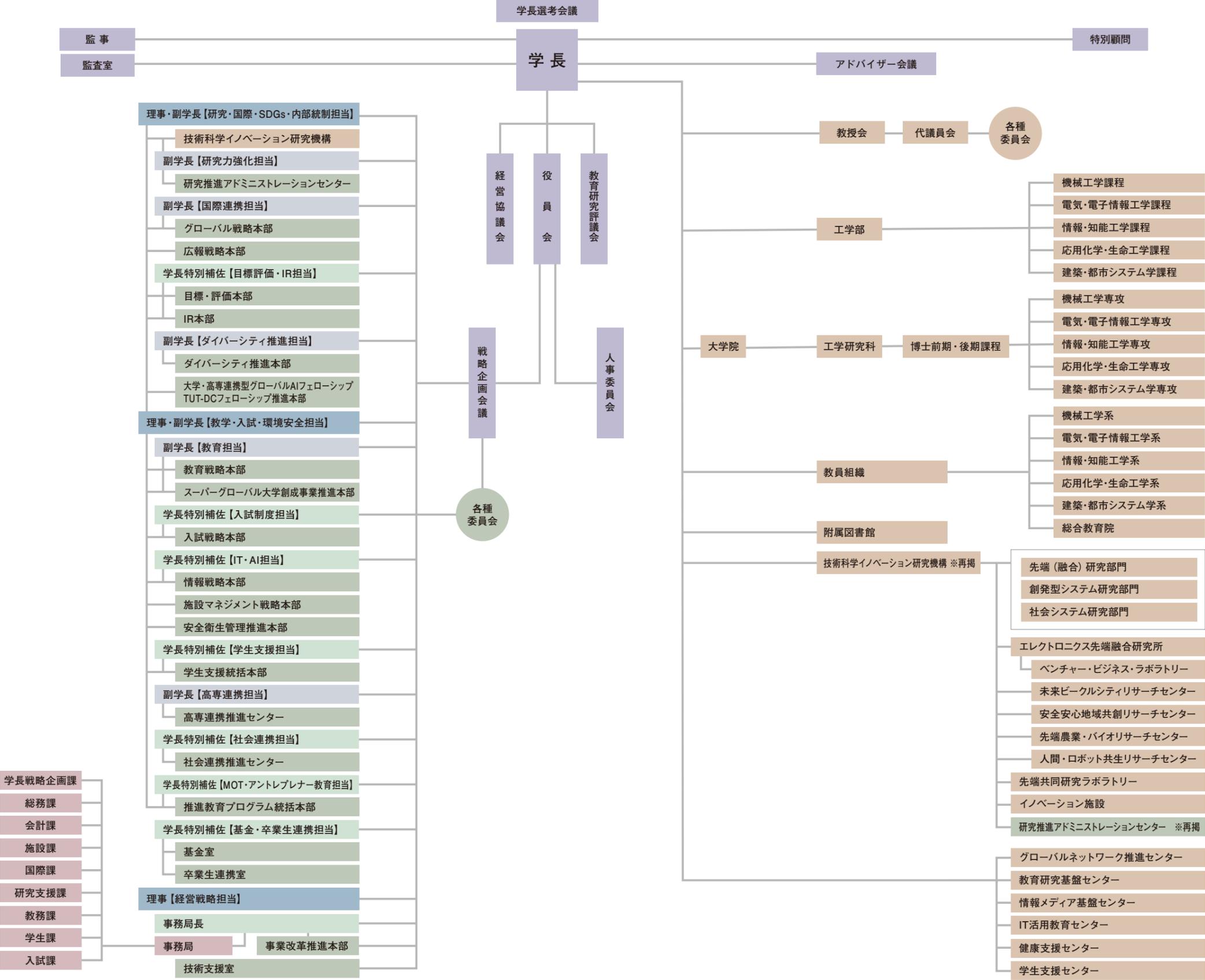
第8代学長

寺嶋 一彦

名誉教授

(50音順)

氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
青木 克之	大西 隆	北田 敏廣	高橋 正	野村 武	蒔田 秀治
青木 伸一	大平 孝	北村 健三	高橋 由雅	英 貢	増山 繁
阿部 英次	太田 昭男	小崎 正光	高山 雄二	浜島 昭二	松為 宏幸
井佐原 均	大呂 義雄	小杉 隆芳	竹市 力	原 邦彦	松本 博
石田 誠	恩田 和夫	後藤 圭司	竹園 茂男	日比 昭	水野 彰
磯田 定宏	角 徹三	小林 俊郎	田所 嘉昭	平石 明	三田地 紘史
伊藤 健兒	角田 範義	逆井 基次	寺澤 猛	廣島 康裕	森 謙一郎
伊藤 浩一	加藤 史郎	榊原 建樹	寺嶋 一彦	福岡 秀和	安田 好文
伊藤 光彦	加藤 三保子	榊 佳之	長尾 雅行	福田 光男	山口 誠
稲垣 道夫	金子 豊久	櫻井 庸司	中川 聖一	福本 昌宏	山下 富雄
稲垣 康善	亀頭 直樹	清水 良明	中村 俊六	藤井 壽崇	山本 淳
上村 正雄	川上 正博	神野 清勝	中村 雅勇	藤原 孝男	山本 眞司
臼井 支朗	河邑 眞	鈴木 慈郎	西永 頌	堀内 幸	横山 光雄
梅本 実	菊池 洋	鈴木 新一	新田 恒雄	堀川 順生	米津 宏雄
大貝 彰	木曾 祥秋	関野 秀男	野口 精一郎	本間 寛臣	渡邊 昭彦
大澤 映二	北尾 高嶺	高木 章二	野田 進	本間 宏	



**広報戦略本部**  
 大学における広報活動を推進するため、広報戦略を策定し、広報戦略に基づく企画・立案を行うとともに、社会等への情報発信及び戦略的広報活動の推進等に関し、総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。

**施設マネジメント戦略本部**  
 大学における施設マネジメントを効率的に進めるため、施設マネジメント戦略の策定に関すること、施設マネジメント戦略に基づく企画・立案に関すること、戦略的施設マネジメントの推進に関すること、校地利用及び建物・工作物の配置等の総合計画に関すること等に関し、総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。

**安全衛生管理推進本部**  
 大学における安全衛生管理を推進するための企画、立案調整を行うとともに、職場巡視の実施と労働災害の防止に関し、総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。

**情報戦略本部**  
 大学における学術情報活動を推進するため、情報戦略の基本方針を策定し、学術情報基盤の整備、情報セキュリティの確保、附属図書館及び情報メディア基盤センター運営の企画・立案等に関し、総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。

**ダイバーシティ推進本部**  
 大学におけるダイバーシティを推進するため、独自に「EQUAL宣言」を掲げて、企画・立案、調査、改善、情報提供を行うなど、ダイバーシティ推進に関する総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。

**IR本部**  
 大学におけるIR機能を強化するため、研究力強化及び教育の質の向上等情報の調査・分析・提供・各種戦略分析等に関し、総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。

**目標・評価本部**  
 国立大学法人の中期目標・中期計画及び年度計画に関することや、自己点検・評価及び第三者評価（認証評価）等、目標評価に関する業務の実施への対応、教員評価等に関し、総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。

**学生支援統括本部**  
 大学における学生支援事業を充実させるため、学生支援に関する基本方針及び支援策の企画・立案を行い、学生生活の支援に関すること、学生相談に関すること、キャリア支援に関すること等の学内調整を行う。

**社会連携推進センター**  
 本学が有する知や研究成果を広く活用し豊かで持続可能な「地域の未来創生」に貢献するため、地域自治体等との連携、社会人人材育成事業による地域社会の活性化、青少年の理工系人材育成等の社会貢献事業を推進する。

**研究推進アドミニストレーションセンター**  
 研究戦略室、産学官連携推進室、産学官連携リスクマネジメント室、技術科学支援室、OPERA支援室を置き、産学連携実績や異分野融合の場を基盤として、従来の課題解決型工学から価値創造型工学に進化した異分野融合イノベーション研究を推進・支援する。

**高専連携推進センター**  
 高専との連携に関する総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。また、高専教員との共同研究や協働教育を支援することにより、技術科学力の高い人材養成を推進する。

**教育戦略本部**  
 大学における教育戦略を推進するため、卒業及び修了認定・学位授与の方針並びに教育課程編成・実施の方針、教育戦略の方針及び制度設計等、学修成果・教育成果の把握・可視化、教育活動に係る調査研究及び検証等に関し、総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。

**入試戦略本部**  
 大学における入学者受入れの方針を決定し、入学者選抜に係る戦略の方針、制度設計、調査研究、検証、広報及び情報公表等に関し、総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。

**グローバル戦略本部**  
 グローバル活動に係る戦略の策定に関すること、大学間国際交流の基本方針及び重点交流事項の策定に関すること、国際的ネットワーク拠点の活用方針の策定に関すること、グローバル活動に係る調査研究及び検証に関することについて、総合的な取りまとめ及び学内調整を行う。

国立大学法人豊橋技術科学大学組織規則（平成16年度規則第1号）第18条の規定により設置する本部・センター

学内組織

役職員の紹介



**職名**  
理事・副学長  
(研究・国際・SDGs・内部統制担当)

**専門分野**  
・森林生態学

**学位**  
農学博士(京都大学)

**所属学会**  
・日本森林学会  
・日本植物学会  
・日本農学アカデミー  
・森林立地学会

【理事・副学長】  
**山本 進一**  
Yamamoto, Shinichi



**職名**  
理事・副学長  
(教学・入試・環境安全担当)

前 和歌山工業高等専門学校 校長

**専門分野**  
・触媒化学  
・環境化学  
・応用化学

**学位**  
理学博士(北海道大学)

**所属学会**  
・触媒学会  
・石油学会  
・日本化学会  
・アメリカ化学会

【理事・副学長】  
**角田 範義**  
Kakuta, Noriyoshi



**職名**  
理事(経営戦略担当)

株式会社サトーコーポレーション代表取締役  
社長兼グループ代表・CEO  
一般社団法人中部経済連合会副会長

【理事】  
**神野 吾郎**  
Kamino, Goro



**職名**  
副学長(教育担当)

機械工学系教授

**専門分野**  
・材料力学 ・構造力学  
・材料工学 ・衝撃工学

**学位**  
工学博士(東京工業大学)

**所属学会**  
・日本機械学会  
・日本非破壊検査協会  
・日本材料学会  
・日本実験力学会  
・日本計算数理工学会  
・日本複合材料学会

【副学長】  
**足立 忠晴**  
Adachi, Tadaharu



**職名**  
副学長(研究力強化担当)

エレクトロニクス先端融合研究所教授  
研究推進アドミニストレーションセンター(RAC)  
センター長  
イノベーション施設長

**専門分野**  
・超伝導電子工学 ・バイオ計測応用  
・センサ工学 ・非破壊検査

**学位**  
工学博士(大阪大学)

**所属学会**  
・応用物理学会  
・電気学会  
・電子情報通信学会  
・IEEC

【副学長】  
**田中 三郎**  
Tanaka, Saburo



**職名**  
副学長(高専連携担当)

電気・電子情報工学系教授  
高専連携推進センター長

**専門分野**  
・半導体工学  
・光電子工学  
・結晶成長

**学位**  
工学博士(豊橋技術科学大学)

**所属学会**  
・応用物理学会  
・電子情報通信学会  
・日本結晶成長学会  
・日本MRS

【副学長】  
**若原 昭浩**  
Wakahara, Akihiro



**職名**  
副学長(国際連携担当)

情報・知能工学系教授  
グローバル戦略本部副部長

**専門分野**  
・視覚認知情報学 ・視覚技術

**学位**  
工学博士(豊橋技術科学大学)

**所属学会**  
・電子情報通信学会  
・日本視覚学会  
・日本神経科学学会  
・日本神経回路学会  
・映像情報メディア学会  
・Imaging Science & Technology  
・Optical Society of America

【副学長】  
**中内 茂樹**  
Nakachi, Shigeki



**職名**  
副学長(ダイバーシティ推進担当)

情報・知能工学系教授  
教育研究基盤センター教授

**専門分野**  
・無機材料  
・組織・構造解析

**学位**  
博士(工学)(豊橋技術科学大学)

**所属学会**  
・日本学会協議会  
(23-24期、25-26期)  
・日本セラミックス協会  
・粉体工学会  
・日本材料学会  
・応用物理学会

【副学長】  
**中野 裕美**  
Nakano, Hiromi



**職名**  
副学長(目標評価・IR担当)

情報・知能工学系教授

**専門分野**  
・モーション・メディアとグラフィックス  
・画像情報のスタイル解析と工芸への応用

**学位**  
工学博士(大阪大学)

**所属学会**  
・ACM  
・IEEE  
・電子情報通信学会  
・情報処理学会

【学長特別補佐】  
**栗山 繁**  
Kuriyama, Shigeru



**職名**  
学長特別補佐(入試制度担当)

機械工学系教授

**専門分野**  
・機械力学  
・計算力学

**学位**  
工学博士(名古屋大学)

**所属学会**  
・日本機械学会  
・計測自動制御学会  
・自動車技術会  
・日本臨床バイオメカニクス学会  
・バイオメカニクス学会

【学長特別補佐】  
**河村 庄造**  
Kawamura, Shozo



**職名**  
学長特別補佐(学生支援担当)

総合教育院教授  
学生支援センター長

**専門分野**  
・英語学  
・英語教育学

**学位**  
博士(工学)(豊橋技術科学大学)

**所属学会**  
・全国英語教育学会  
・関東甲信越英語教育学会

【学長特別補佐】  
**池松 峰男**  
Ikematsu, Mineo



**職名**  
学長特別補佐(IT・AI担当)

情報メディア基盤センター教授  
IT活用教育センター長

**専門分野**  
・計算化学、ケモインフォマティクス  
・高性能計算、機械学習

**学位**  
博士(理学)(北海道大学)

**所属学会**  
・日本化学会  
・日本コンピュータ学会  
・情報計算化学生物学会  
・情報処理学会  
・American Chemical Society  
・Association for Computing Machinery

【学長特別補佐】  
**後藤 仁志**  
Goto, Hitoshi



**職名**  
学長特別補佐(社会連携担当)

建築・都市システム工学系教授  
社会連携推進センター長

**専門分野**  
・海岸工学  
・沿岸防災

**学位**  
博士(工学)(岐阜大学)

**所属学会**  
・土木学会  
・日本沿岸域学会  
・米国地球物理学連合

【学長特別補佐】  
**加藤 茂**  
Kato, Shigeru



**職名**  
学長特別補佐

(MOT・アントレプレナー教育担当)  
研究推進アドミニストレーションセンター  
特任教授

**専門分野**  
・材料加工・処理  
・界面・表面創成学

**学位**  
工学博士(慶應義塾大学)

**所属学会**  
・日本機械学会  
・溶接学会  
・日本溶射学会  
・ASM International  
・日本金属学会  
・自動車技術会  
・摩擦接合技術協会

【学長特別補佐】  
**福本 昌宏**  
Fukumoto, Masahiro



**職名**  
学長特別補佐(基金・卒業生連携担当)

電気・電子情報工学系教授  
教育研究基盤センター長

**専門分野**  
・プラズマ応用工学  
・薄膜/ナノ材料合成・表面処理  
・再生可能エネルギー

**学位**  
工学博士(豊橋技術科学大学)

**所属学会**  
・電気学会  
・応用物理学会  
・電気設備学会  
・表面技術協会  
・日本トライボロジー学会  
・ニューダイヤモンドフォーラム

【学長特別補佐】  
**滝川 浩史**  
Takikawa, Hirofumi

役職員

役員	学長	寺嶋 一彦
	理事・副学長(研究・国際・SDGs・内部統制担当)	山本 進一
	理事・副学長(教学・入試・環境安全担当)	角田 範義
	理事(経営戦略担当)	神野 吾郎
	監事	佐藤 元彦
	監事	牧 葉子
副学長(教育担当)	足立 忠晴	
副学長(研究力強化担当)	田中 三郎	
副学長(高専連携担当)	若原 昭浩	
副学長(国際連携担当)	中内 茂樹	
副学長(ダイバーシティ推進担当)	中野 裕美	
学長特別補佐(目標評価・IR担当)	栗山 繁	
学長特別補佐(入試制度担当)	河村 庄造	
学長特別補佐(学生支援担当)	池松 峰男	
学長特別補佐(IT・AI担当)	後藤 仁志	
学長特別補佐(社会連携担当)	加藤 茂	
学長特別補佐(MOT・アントレプレナー教育担当)	福本 昌宏	
学長特別補佐(基金・卒業生連携担当)	滝川 浩史	

事務局

事務局長	阿部 英樹
事務局次長(企画・学務担当)	山内 和哉
事務局次長(総務・財務担当)	青山 信人
学長戦略企画課長	山内 和哉
総務課長	深井 麻須美
事務局付課長(総務課課長(業務改善推進担当))	小柳 幸次
会計課長	桐島 孝
施設課長	楠元 好秋
国際課長	黒田 清彦
研究支援課長	河合 孝弘
教務課長	永田 一
教務課 課長(情報・図書担当)	妹尾 ひとみ
学生課長	本間 佳子
入試課長	柴田 武彦

系長・総合教育院長

機械工学系長	伊崎 昌伸
電気・電子情報工学系長	穂積 直裕
情報・知能工学系長	北崎 充晃
応用化学・生命工学系長	松本 明彦
建築・都市システム学系長	齊藤 大樹
総合教育院長	中森 康之

技術科学イノベーション研究機構

技術科学イノベーション研究機構長	山本 進一
エレクトロニクス先端融合研究所長	澤田 和明
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長	柴田 隆行
イノベーション施設長	田中 三郎
未来ビークルシティリサーチセンター長	大平 孝
安全安心地域共創リサーチセンター長	齊藤 大樹
先端農業・バイオリサーチセンター長	浴 俊彦
人間・ロボット共生リサーチセンター長	岡田 美智男
TUT-ISYS先端システム工学国際共同研究ラボラトリー	内山 直樹
研究推進アドミニストレーションセンター長	田中 三郎

附属図書館

附属図書館長	角田 範義
--------	-------

共同利用教育研究施設

教育研究基盤センター長	滝川 浩史
情報メディア基盤センター長	角田 範義
IT活用教育センター長	後藤 仁志
健康支援センター長	小島 俊男
学生支援センター長	池松 峰男
グローバルネットワーク推進センター長	中内 茂樹

社会連携推進センター

社会連携推進センター長	加藤 茂
-------------	------

高専連携推進センター

高専連携推進センター長	若原 昭浩
-------------	-------

特別顧問

特別顧問	大貝 彰
------	------

役員会

学長	寺嶋 一彦
理事・副学長(研究・国際・SDGs・内部統制担当)	山本 進一
理事・副学長(教学・入試・環境安全担当)	角田 範義
理事(経営戦略担当)	神野 吾郎

経営協議会

学内委員

学長	寺嶋 一彦
理事・副学長(研究・国際・SDGs・内部統制担当)	山本 進一
理事・副学長(教学・入試・環境安全担当)	角田 範義
理事(経営戦略担当)	神野 吾郎
事務局長	阿部 英樹

学外委員

国立大学法人長岡技術科学大学理事・副学長	和田 安弘
学校法人尚絅学院大学長	合田 隆史
豊橋市長	浅井 由崇
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長	谷口 功
豊橋技術科学大学同窓会会長 (株式会社日建設計 執行役員)	若林 亮
豊橋商工会議所副会頭	松井 孝悦

教育研究評議会

学長、理事・副学長2名、副学長5名、系長5名、総合教育院長1名、副系長5名、総合教育院副院長1名、学長が指名する職員  
(非常勤は除く)

職員の現員

(2021年5月1日現在)

	役員			教育職員※1					一般職員※2			URA ※3	合 計	
	学 長	理 事	監 事	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	事 務 職 員	技 術 職 員	看 護	U R A ※3		
小計	1	3	2	73	82	6	48	9	118	24	1	11		
計	6								218			143	11	375

※1 教育職員には、特定・特任教員、テニュアトラック教員を含む。  
※2 一般職員には、再雇用職員を含む。  
※3 URA(リサーチ・アドミニストレーター) 11名のうち3名は特任教員のため、合計数値とは異なる。

# 豊橋技術科学大学の特色

## 1 高度技術者・先導的人材の育成

高等専門学校からの学生を主な受入対象としつつ、高等学校（普通科、工業科、総合学科）卒業生を1年次に受入れ、学部・大学院一貫教育により、優れた技術開発能力を備え、我が国の産業を牽引する高度な技術者、さらに、広い視野と柔軟な思考力、豊かな学識を備え、グローバル時代を切り拓く研究開発能力を有する先導的な人材を育てています。

## 2 社会産業構造の変化、グローバル化時代に対応し、未来を見据えた新たな教育研究組織の再編

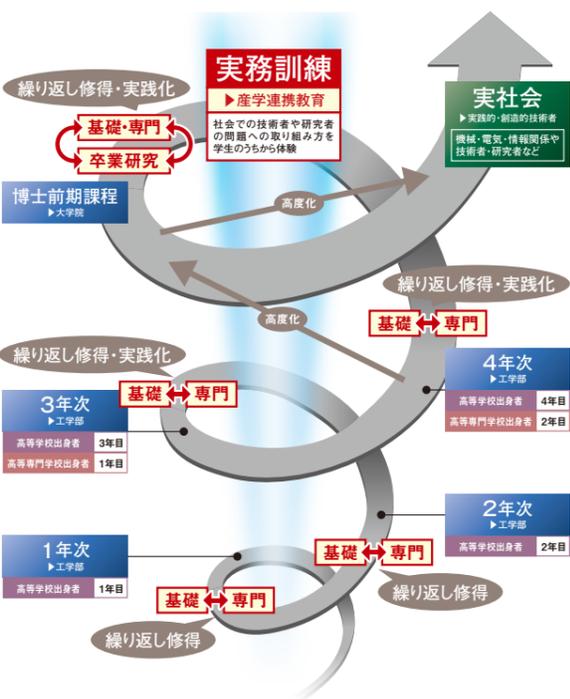
基幹産業を支える先端の技術分野と、持続的発展社会を支える先導的技術分野を2本の柱とし工学部・大学院工学研究科が構成されています。また、高い専門性に加え、幅広い視野を持ち、社会の変化に柔軟に対応できる技術者を養成できるよう、教養教育を総括する総合教育院を設置しています。

- |   |  |
|---|--|
| <b>基幹産業を支える先端の技術分野</b><br>① 機械工学課程／専攻<br>② 電気・電子情報工学課程／専攻<br>③ 情報・知能工学課程／専攻 | <b>持続的発展社会を支える先導的技術分野</b><br>④ 応用化学・生命工学課程／専攻<br>⑤ 建築・都市システム学課程／専攻 |
|---|--|



## 3 特色ある教育（らせん型教育、実務訓練）

教育の大きな特徴は「らせん型教育」にあります。学部1・2年次及び高等専門学校において一定の技術教育（基礎・専門）を学んだ学生に対し、3年次以降で、より高度な基礎・専門を繰り返して「らせん型」のように積み上げていく教育を行います。学部4年次（大学院進学前）には、産業界での実務訓練を履修し、実社会における技術者としての問題への取り組み方を学生のうちから体験することにより、博士前期課程における実践的・創造的・指導的技術者となるための高度な教育の意味を理解していきます。このように、基礎・専門を繰り返し、社会での実践教育により、科学を理解し、技術に強い関心を持つ学生を育てることが本学の特色です。



## 4 大学院に重点を置いた教育体系

産業界の工学系学生の採用は大学院修了生に比重を移しています。本学では、大学院博士前期課程の定員を多く設定することで、対応し能力を持つ学生に広く門戸を開き、学部・大学院一貫教育による高度な研究活動に注力した教育を推進しています。

## 5 研究大学（基盤を支える研究、先端分野の研究）

世界水準の優れた研究活動を行う大学として、研究大学強化促進事業（2013～2022年度）の選定大学として、研究大学促進事業費の支援を受けています。電気電子工学や情報学を基盤とした先端融合研究創成分野、機械工学や材料工学などの基幹産業を支える実践的技術分野、応用化学・生命工学関連分野などの先端的研究を推進するとともに、分野の垣根を越えた、これまでの課題解決型工学から、新しい価値を創造する価値創造型工学に進化した異分野融合イノベーション研究を推進する拠点形成を目指しています。



## 6 高等専門学校との連携

本学は、高等専門学校卒業生の受け皿として開設された経緯から、全国57校（国立51校、公立3校、私立3校）の高等専門学校との教育・研究面での深い連携の下で技術系人材の養成に力を入れています。高等専門学校教員との教育・研究交流を推進するとともに、本科4・5年次および専攻科生に対する体験実習および研究を通じた実践的協働教育を進めています。また、編入学生に対しては、高等専門学校における教育課程と接続性の高い教育の提供を目指しています。2020年度からは、高等専門学校専攻科と連携して技術実装力の高い地域人材育成を目指す「連携教育プログラム」を開設し、高等専門学校との連携を通じて地域を支える人材育成にも貢献しています。



## 7 活発な国際交流

本学は「世界に開かれた大学」として欧州、米国、アジアの交流協定校との連携や海外拠点（マレーシア・ベナン州）の活用を通じて、日本人学生の派遣、外国人留学生の受入れ、国際共同研究・人材交流を積極的に推進し、これからの世界を支えるグローバル人材の育成に力を入れています。なかでも文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業「『グローバル技術科学アーキテクト』養成キャンパスの創成」では、バイリンガル講義や多国籍居住空間「グローバルハウス」などのグローバルキャンパス構想や、多文化共生を体現できる「グローバル技術科学アーキテクト」の養成など、グローバル化に向けた抜本的な大学変革を進めています。また、「近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム（IMLEX）」が、文部科学省とEUによる初の共同公募事業（大学の世界展開力強化事業）に採択され、日-EU共同大学院教育プログラムとして2020年度から始まりました。このプログラムでは次世代のクロスリアリティ技術（仮想現実や拡張現実などの総称）を創造し、操り、応用できるグローバル人材の育成を目指しており、本学とヨーロッパの東フィンランド大学（フィンランド）、ルーヴェン・カトリック大学（ベルギー）、サンティエヌ ジャン・モネ大学（フランス）の4大学とグローバル企業による国際産学連携コンソーシアムによって運営されています。この他、シュトゥットガルト大学（ドイツ）や東フィンランド大学（フィンランド）とのダブルディグリー・プログラム、マレーシア科学技術大学（マレーシア）やモンゴル科学技術大学（モンゴル）とのツィニング・プログラム、海外実務訓練などを通じて、海外に開かれた大学としての取り組みを実践しています。



## 8 多様な産学官連携と地域社会との連携

開学以来、企業との共同研究等を通じ、産学連携拠点の形成を使命の一つとしており、教員1人当たりの民間企業との共同研究費の受入額は、2019年度で全国2位、ここ数年においては全国の大学の中で常に5位以内です。また、特許出願件数や特許権実施等収入も多く、地域産業界との連携が活発です。全学の「知」を結集し、愛知県をはじめとする周辺地域が抱える課題の解決対応事業や「集積回路（LSI）技術講習」、「最先端植物工場マネージャー育成プログラム」及び「東三河防災カレッジ」などの実績を活かした社会人向けの実践教育プログラムを推進しています。また、周辺地域との連携を強め、新たな人材育成・社会人教育プログラムの開発にも取り組んでいます。

# 次代を拓く高度技術者育成プログラム

本学は、小規模な工科大単科大学でありながら、スーパーグローバル大学創成支援事業、研究大学強化促進事業、国立大学経営改革促進事業、博士課程教育リーディングプログラムなどの国の大型プロジェクトに採択され、これらを力強く推進してきました。

## ■ 教育

スーパーグローバル大学創成支援事業 2014年度～2023年度 (全国で37大学が採択)

### 「グローバル技術科学アーキテクト」養成キャンパスの創成

開学以来培ってきた教育力・研究力を土台としつつ、抜本的なグローバル化施策を全学的に実施し、国際通用性の高い「多文化共生・グローバルキャンパス」を実現し、「グローバル技術科学アーキテクト」(グローバル社会で必要とされる、実践的・創造的かつ指導的な技術者)を養成する大学への変革を進めています。

#### 「変革を推進するための3つの柱」

- グローバル技術科学アーキテクト養成コース (2017年度 新設)
- グローバル学生宿舎「TUTグローバルハウス」(2017年度 新設)
- 重層的なグローバル人材循環 (2014年度～ 推進中)

「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」協力校・選定大学 (全国で30大学が協力校・選定校として採択)

### データ科学のものづくり技術への定着を促進する包括的教育環境の整備

2019年、「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」の協力校に選定され、「技術を科学する」という本学の建学精神に基づき、データサイエンスを科学からものづくり技術へと展開できる人材を育成しています。情報系の学生だけでなく、全系の学生・研究者が自らの分野の研究にビッグデータを活用できることを目指し、様々な工学分野で技術を定着させるための電子教材を開発しています。この教材は電子教科書 (E-Learning 教材) を用いた学習と、データ処理ツールを用いた実践的演習を組み合わせたものです。これらの教材を本学だけではなく他大学、企業へも展開し、得られた知見をもとにさらに教材を改良・拡張します。



## ■ 研究

研究大学強化促進事業 2013年度～2022年度 (全国で22機関が採択)

### 「価値を創造する研究大学世界水準の優れた研究活動を行う大学として、一層の発展を目指す」

これまでの「課題解決型工学」から異分野を融合し新しい価値を創造することを理念とした「価値創造型工学」に進化したイノベーション研究と成果の社会実装を推進する拠点の形成を目指します。

分野や組織の垣根を越え、国内外の企業や研究機関と連携を深め、海外トップクラスの多様な人材の招へい・新人事制度・多国間研究連携・戦略的知財活動・国際シンポジウム開催・海外への情報発信等を、本事業によって設置した研究推進アドミニストレーションセンター (RAC: Research Administration Center) が中心となって、これを加速する支援体制・環境を整備しています。事業では研究活動支援機能の自立化が求められており、共同研究講座の設置など組織対組織による共同研究の大型化を推進しています。

## ■ 大学経営

国立大学経営改革促進事業 2019年度～2021年度 (全国で20大学が採択)

### 技科大・高専連携に基づく地域産学官金協創プラットフォームの構築と全国展開による自立的な財政基盤・マネジメントの強化

豊橋・長岡の両技科大は、Society5.0を支えるモノづくり+ITの研究分野を中心にイノベーション創成に貢献する地域大型共同研究および教育連携を強化することにより、多様な財源確保による法人の財政基盤とマネジメントの強化を図り、地域の特色に応じた産業活性化、新産業創出、地域に貢献する人材育成、地域活性化を行います。

両技科大・高専は、豊富な研究シーズと、高専含め4,200人の充実した教員数により、広範な技術科学分野を網羅しており、現状でも共同研究件数は他の国立工科大を上回り、特に中小企業との共同研究は件数・金額ともに卓越したものとなっております。本事業により連携が進めば更に拡大できる可能性があります。そこで、複雑で多様化する技術に対応していくためにはトータルソリューションを提案できる仕組み、体制の構築が必要です。

学長のリーダーシップのもと、上記の課題解決に向けて以下を推進します。

- 両技科大・高専連携による、全国ネットワークの高度化による地域再生
- 幅広い産学連携により財源を多角化し、大学の経営基盤を強化
- 学生教育から社会人リカレント教育まで、IT/AIに強い技術科学人材の効果的育成



# 機械工学

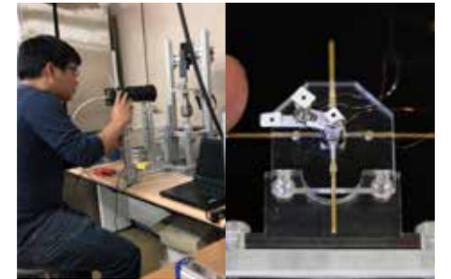
<http://www.me.tut.ac.jp/>

機械・システムデザイン分野 | 材料・生産加工分野 | システム制御・ロボット分野 | 環境・エネルギー分野



## 課題解決型の技術者・研究者の育成

機械工学は、機械の設計、製作、運用などを幅広く対象とする学問分野であり、機械工学系は、機械・システムデザイン、材料・生産加工、システム制御・ロボット、環境・エネルギーの4分野から構成されています。グローバル化、労働人口の不足など未曾有の厳しい状況に置かれた我が国の未来を切り拓くには、課題を設定し、それを解決できる高度技術者・先導的人材の育成が急務です。このような人材の育成には、自身が専攻する分野に留まらず、他の分野へも積極的に取り組み、これらを連携させ、かつ全体を包括的に取りまとめて成果を出すことのできる能力の涵養を可能とする教育・研究体制が求められています。これに答えるために当系では、上述した4つの研究分野に対応する4つのコースを設け、またコースごとに4つの計16の研究室体制を敷いています。具体的には、機械力学、材料力学、熱力学、流体力学の4大力学を基に物理現象を解析する認識工学系研究室、及び材料工学、先端加工工学、システム科学を連携させるものづくり・設計工学系研究室です。当系では、これらの分野の学術・技術を相互に連携・連鎖させ、近未来の持続可能な社会構築に向けた革新的な機能・構造材料、次世代ロボット、環境、エネルギー、未来型ビークル、生体・医療・診断などの主要産業分野で活躍できる実践的・創造的かつ指導的技術者・研究者の育成を目指しています。



# 電気・電子情報工学

<http://www.ee.tut.ac.jp/>

材料エレクトロニクス分野 | 機能電気システム分野 | 集積電子システム分野 | 情報通信システム分野



## 人と地球とeECo未来

電気・電子情報工学系は、材料エレクトロニクス、機能電気システム、集積電子システム、情報通信システムの4つの分野で構成されています。各分野が連携することによって、持続可能なカーボンニュートラル社会の実現に資する新材料・デバイス開発、AIを活用したエネルギー利活用技術、先端医療・農業分野等に貢献するセンシング技術の構築を目指しています。材料エレクトロニクス分野では、各種の新規材料開発技術を駆使した、磁気ホログラム応用、ナノフォトニックデバイス、高性能ハイブリッド材料等の開発、機能電気システム分野では、次世代電気エネルギーの創生・輸送・貯蔵・利用技術、及び、それらの融合的な応用技術の開発、集積電子システム分野では、設計から製造、評価までを一貫して行える半導体製造施設を活用した光・電子融合デバイス、スマートセンサ、バイオセンサ、MEMS等の開発、情報通信システム分野では、ワイヤレスで情報やエネルギーを伝送し処理するための高周波回路、通信方式、高速処理、セキュリティ技術等の開発など、幅広い分野について教育と研究を行っています。学部から大学院博士前期・後期課程に至る一貫したらせん型教育研究システムを通じ、実践を重視した最先端の電気・電子情報工学を習得します。学生諸君の適性や志向に応じたテーラーメイドな最先端技術科学のカリキュラムを用意し、広い視野と俯瞰的思考力を備えた先導的・先端技術者を養成しています。また、エレクトロニクス先端融合研究所 (EIIRIS) や本学が推進しているユニークな教育プログラムとも強く連携して、国際社会に役立ち、人類の夢と希望を拓く、世界トップクラスの教育研究を展開します。



※ eECo (イーエコ: Electrical, Electronic, Communications)  
※ 第1種電気主任技術者認定課程

# 情報・知能工学

<https://cs.tut.ac.jp/>



計算機数理学分野   データ情報学分野   ヒューマン・ブレイン情報学分野   メディア・ロボット情報学分野

## 「情報」と「知能」で世界を拓く

情報・知能工学系の研究分野は互いに密接に関連しており、ITやICTの進化に合わせてダイナミックに対応可能な組織構成となっています。

それぞれの分野では計算機を核とし、高度に情報化した知的社会のインフラを支えるための基盤技術から応用技術まで、幅広い情報処理技術全般の教育・研究を行っています。

これらの基盤技術や応用技術としては、例えば、アルゴリズムや計算理論を含むソフトウェア技術、並列処理や組み込み計算機を含むコンピュータの構築技術、深層学習を利用してビッグデータを解析するデータサイエンス、Webや携帯端末を用いたインターネットの利用技術、テキスト・音声・画像・グラフィックスなどのマルチメディア情報処理とインタフェース技術、ヒトとロボットの共生を目指す知能・インタラクション・ユビキタスセンシング技術、ヒトの知覚・認知メカニズムの解明とコミュニケーション技術への応用、生命・自然・社会における知の理解とモデル化、先端的な大規模ソフトウェア・システム構築技術や計算科学への応用、などが挙げられます。

また、博士課程教育リーディングプログラムを主導し、エレクトロニクス先端融合研究所 (EIIRIS) や人間・ロボット共生リサーチセンターとも密に連携して研究活動を進めています。

以上のように、分野横断的な研究を含め、基盤技術から応用技術まで幅広く「情報・知能」技術科学の研究を行っている点が情報・知能工学系の特色です。



# 応用化学・生命工学

<https://chem.tut.ac.jp/>



分子制御化学分野   分子機能化学分野   分子生物化学分野

## 人類と地球の未来を化学・生命科学で切り拓く

応用化学・生命工学課程・専攻では、化学と生命科学に関わる幅広い分野の教育・研究を行い、人間社会を地球的な視点から多面的にとらえるとともに、自然と人間の共生を図りながら人類の幸福・発展に貢献できる人材を育成します。本課程・専攻には、応用化学コースおよび生命工学コースが設置されています。

応用化学コースは分子制御化学分野と分子機能化学分野で構成され、物理化学、分析化学、無機化学、有機化学、化学工学等に関する基礎・専門科目の修得と実験・実習の実践的教育を通じて、物質科学を原子・分子レベルで理解し、分野複合的な課題に対して大局的見地からアプローチすることができる専門知識と専門技術を身につけます。

生命工学コースは分子生物化学分野で構成され、分子生物学、遺伝子工学、生化学、応用化学等に関する様々な専門科目の修得と実験・実習の実践的教育を通じて、生命科学を分子レベルから遺伝子レベルで理解し、生体分子と生命活動が関わる分野横断的な課題に対して俯瞰的に解決方法を見出すことのできる専門知識と専門技術を身につけます。

いずれの教育コースにおいても、狭い専門にとらわれない幅広い視野と思考能力を持ち、国際的に活躍できる指導的技術者を養成します。これらの教育・研究を通じて、持続可能な社会を可能とする応用化学・生命工学分野の研究拠点形成を目指しています。



# 建築・都市システム学

<http://www.ace.tut.ac.jp/>



建築・都市デザイン学分野   都市・地域マネジメント学分野

## 安心して暮らせる豊かな社会の礎を築く、確かな技術者を育てます

建築・都市システム学系は、従来の学問分野である建築学と土木工学を融合させ、同時に社会科学及び人文科学の要素を積極的に取り入れた新しい学問分野として構成されています。また、このような技術を習得した技術者を育てるための教育プログラムを提供しています。

研究分野では、「建築・都市デザイン学分野」及び「都市・地域マネジメント学分野」の2本柱を立て、デザイン研究とマネジメント研究を推進することを目標に掲げています。そして、これからの社会に安全・安心で質の高い生活環境を提供するために、都市・地域の建築・社会基盤施設及び国土環境をデザインするとともに、それらをシステムとしてマネジメントするための技術を研究しています。

教育分野では、都市や地域の持続的発展のために必要な基盤的研究や、未来社会に新しい価値を生み出すための創造的研究を教育課程に反映させることにより、建築・社会基盤分野の専門知識とそれらを活かすデザイン力・マネジメント力を備え、国際的に活躍できる実践的・創造的技術者を育てることを目標としています。

加えて、安全安心地域共創リサーチセンターとの連携によるBCP・防災をテーマとした持続可能で安全安心快適な社会的システムの設計・マネジメントに貢献できる国際的なエンジニアの育成も目指しています。



# 総合教育院

<http://las.tut.ac.jp/>



人文科学分野   社会科学分野   自然科学・基礎工学分野   コミュニケーション分野

## 技術科学の土壌 —リベラルアーツ

科学技術は、人間の生活をより快適で充実したものにしてくれる文化の極めて重要な要素であり、近代社会の形成と発展に重要な役割を果たしてきました。その一方で、ますます複雑化する社会と世界は、環境問題を始め、多くの課題を私たちに突きつけています。それらを解決し、人間と世界の関係をさらに豊かなものにするために、科学技術も新たな段階に入ることが求められています。

こうした状況の中で「指導的技術者」は、自然、環境、社会、人間に関する深い知識と理解をもち、科学技術を人間の営み総体の中に位置づけて考えられる、自立した世界観をもつことが必要です。その土壌となるものこそ「リベラルアーツ」であろうと私たちは考えます。そこで本学では、リベラルアーツ教育を学部にとどまらず博士前期課程においても提供しています。総合教育院はその中核となる存在です。スタッフは、語学・哲学・文学・歴史・社会学・法律・経営学・生理学・化学・物理学・数学といった多岐に亘る分野の研究者で構成されており、その専門的見地から教育を行っています。学部課程の一般基礎科目として、人文科学・社会科学・自然科学・基礎工学の諸分野及び保健体育、外国語を担当し、学術の基礎的な資質や幅広い知識、そして現代社会に不可欠な国際性を育むことを目標としています。博士前期課程では、共通科目として人文科学・社会科学・自然科学・基礎工学の分野を担当し、学部課程の教育を進展させていくことで、狭い専門にとらわれない視野を培います。博士後期課程の研究指導にも関わっている教員もいます。

また、留学生に対する日本語・日本文化の教育も、本教育院の大きな特色の一つです。





3階

2階

1階

# 1 附属図書館

[屋内座席数 / 367席] <http://www.lib.tut.ac.jp/>

図書館は、1980年4月に開館して以来、全学における学術情報センターとして学生・教職員の教育・研究・学修活動を支援しています。図書館の1階は、個人・グループの学修や留学生・企業・地域との交流等に利用できるマルチプラザとなっており、2階と3階は、参考書、雑誌、学術図書等を配架し、静かな環境で個人やグループでの学修・研究を行うことができるエリアとなっています。学生・教職員はICカードにより24時間自由に利用することができます。また、「開かれた図書館」として一般市民の方にもサービスを行っています。

学修・研究活動支援のため、認証基盤の整備により、所蔵している電子的学術資料の学外からの利用が可能となっています。

館内には、視聴覚機器やパソコン等の設備、無線LAN環境が整備されており、利用者は、多くの電子ジャーナル・電子ブック・各種データベースを、従来の紙媒体の図書等とともに、一元的に利用することができます。

図書館では、これら学術情報の蓄積・保管・利用提供などのサービスのみならず、教員・学生の研究論文等を公開し、社会に向けて、大学の情報発信を積極的に進め、「学術機関リポジトリ」の更なるデータ構築を目指しています。



**アレーティア**  
ギリシャ語で「真理」の意味。図書館入口東側の壁面に銘板として刻まれている。

## 開館時間 (有人開館)

通常期間 月～金曜日 9:00～20:00  
土曜日 13:00～17:00  
休業期間 月～金曜日 9:00～17:00

## 特別開館 (無人開館)

上記開館時間帯 (有人開館) 以外の時間帯  
日曜日・祝日、開学記念日 (10/1)

## 休館日

夏季一斉休業日、年末年始は完全休館  
毎月の書架整理日、蔵書点検日は2・3階のみ休館

\* 2020年度は、新型コロナウイルス対応により開館日程やサービス内容の変更あり

## 蔵書数

2021年4月1日現在

図書	169,591冊	雑誌	3,370種
和書	104,995冊	和雑誌	1,696種
洋書	64,596冊	洋雑誌	1,674種

## 電子図書館サービス

2021年4月1日現在

電子ジャーナル提供数	5,551種
電子ジャーナルダウンロード件数 (2020年度)	175,043件
電子ブック提供数	12,309種
データベース提供数	7種

## 利用状況

	2019年度	2020年度
入館者数 (内数で特別開館中の入館者)	213,012人 (47,521人)	40,807人 (256人)
館外貸出冊数	14,407冊	8,234冊
参考質問件数	585件	382件
学外文献複写依頼件数	462件	458件
開館日数	325日	181日

# 2 体育施設



- 体育館(武道場を含む)
- 陸上競技場
- 野球場
- テニスコート
- プール
- トレーニングジム
- 弓道場

# 3 課外活動共用施設



- 音楽練習室 …… 3室
- 共用室 …… 2室
- 暗室 …… 1室
- 倉庫 …… 2室
- 集会棟  
集会室 …… 3室

# 4 課外活動施設 (クラブハウス)



- 部室 …… 11室
- 集会室 …… 2室
- 倉庫 …… 4室

# 6 福利施設



- 食堂
- 売店
- 喫茶室
- ひばりラウンジ

# 8 学生交流会館



- コモンズI、II
- 和室
- キャリア情報室

# 10 研究者(短期滞在)宿泊施設「ヴィレッジ天伯」



- 単身室 …… 14室

# 5 国際交流会館



- 単身室 …… 40室
- 夫婦室 …… 6室
- 家族室 …… 10室

# 7 学生宿舎



- A～D棟 (学部男子学生) …… 400室
- E棟 (大学院男子学生) …… 99室
- F棟 (女子学生・大学院男子学生) …… 96室
- 共用棟

- TUTグローバルハウス (グローバル技術科学アーキテクト養成コース) …… 180室
- グローバルアセンブリールーム (集会所)

# 9 非常勤講師等宿泊施設「ひばり荘」



- 洋室 …… 6室 (ツイン1室、シングル5室)
- 和室 …… 2室

# 11 豊橋駅前サテライト・オフィス



- 豊橋市松葉町2丁目10番地 豊橋市まちなか活性課事務所1階

## 豊橋技術科学大学海外拠点

# 12 マレーシア海外拠点

- TUT-USM Penang  
No.3 Cantonment Road, 10350  
Penang, Malaysia



# 13 中国瀋陽海外拠点

- TUT Shenyang Office Northeastern University, 3-11, Wenhua Road, Heping District, Shenyang, Liaoning Province 110004 CHINA (東北大学内)



## 技術科学イノベーション研究機構

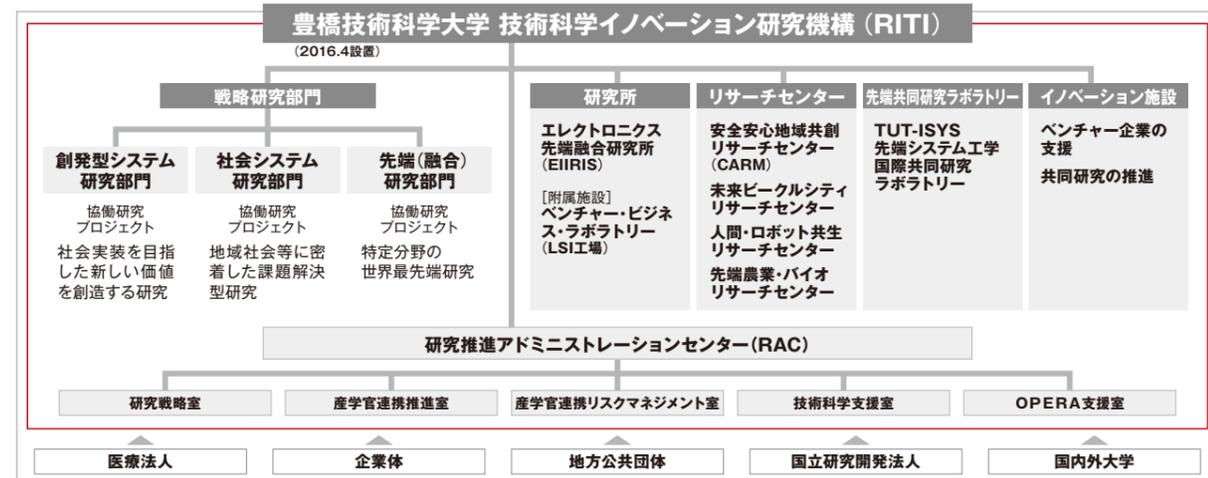
豊橋技術科学大学では、技術の進化を支える学理を解き明かし、そこから新たな革新的技術を再生産し、直面する社会的な課題の解決や、未来社会の創造につながる新たな価値を創造することによって人類社会の発展に貢献することを創立の理念としています。

本学では、この理念を高いレベルで実現するため、「技術科学イノベーション研究機構」を設置し、特に

- ①国内外のリーディング企業やトップ研究機関との強力な協働作業による、先端（融合）研究の推進
- ②急速な進化を遂げつつある人工知能技術と融合した価値創造型の創発型システム研究の推進
- ③課題解決型社会システム研究の推進

を掲げ、既存のエレクトロニクス先端融合研究所と4つのリサーチセンターの研究活動との間に横串を通し、オープンイノベーション実現に向けた研究を推進しています。

### 技術科学イノベーション研究機構組織図



## 戦略研究部門

「技術科学イノベーション研究機構」の中で、国内外の研究機関や企業とマッチングファンド形式による高度の戦略的なイノベーション協働研究プロジェクトを推進し、特定分野の最先端を切り開くとともに、研究成果の社会実装・社会提言力を強化します。機構の中に次の3つの戦略研究部門を置きます。

- 先端(融合)研究部門：特定分野の世界最先端研究・共同研究ラボ … センサ&センシング、心と脳の科学、ナノ構造制御新材料など
- 創発型システム研究部門：人工知能・工学融合システムの研究 …… 進化するロボット、モーション制御、多言語機械翻訳など
- 社会システム研究部門：地域に密着した社会システム課題解決研究 … 地震防災情報検知システム実装、資源循環システムなど

## 先端共同研究ラボラトリー

高度な研究水準を有する国内外の研究機関等の研究者と本学の教員が協働し、特定の研究分野について、一定期間継続的に研究を行い、本学における研究の高度化及び多様化を図ることを目的として、先端共同研究ラボラトリーを設置しました。

## イノベーション施設

研究成果及び人的資源を活用し、ベンチャー企業の起業化およびその起業後の実用化研究開発の支援並びに共同研究の推進等に供することを目的として、設置されています。企業の方々も利用可能です。

## 研究所

### エレクトロニクス先端融合研究所 (EIIRIS)

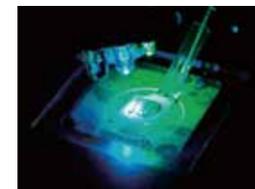
エレクトロニクス先端融合研究所 (Electronics-Inspired Interdisciplinary Research Institute: EIIRIS、通称アイリス) は、2010年10月に設立された本学初の研究所であり、技術科学の探求と応用、すなわち、スマートセンシングやフォトンクス情報デバイスなどエレクトロニクス革新技術の研究と先端的应用分野 (ロボティクス、情報通信、ライフサイエンス、農業工学、環境、防災など) との融合研究を発展させることを目的とした研究拠点です。

2019年4月に、これまでの2つの研究領域から5つの研究分野に拡充した研究体制で、新たな研究開発を行う異分野融合研究拠点として、スタートしております。  
<https://www.eiiris.tut.ac.jp/>



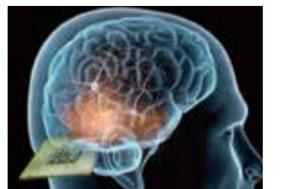
### 革新センシング技術創成分野

これまで EIIRIS で蓄積してきた世界的にも高く評価されているセンサ・MEMS 製作技術と LSI 設計製作技術をもとに様々なスマートセンサ・MEMS デバイスを実現してきました。この強みと国内の材料研究機関・応用研究機関と共同しながら画期的なセンサ・MEMS デバイスの提案と実証を進めています。また、産総研が提案する新たなコンセプトの半導体製作技術を、IoT 社会に不可欠で世界的な成長産業であるセンサ・MEMS 製作への展開を図る研究開発を遂行していきます。



### 革新センシング技術展開分野

EIIRIS で開発されたシリコンプローブやイオンイメージセンサ等を活用して脳情報の読み出しと制御に関わる研究を進めるとともに、神経科学のニーズに基づいた革新的な神経デバイス開発を目指します。また、ヒトの脳波を中心とした生体信号を計測・制御することにより、ヒトの認知処理に関わる神経ネットワークの解明の研究を進めながら、得られた知見をブレインマシンインターフェース (BMI) やニューロマーケティングなどへ応用していきます。



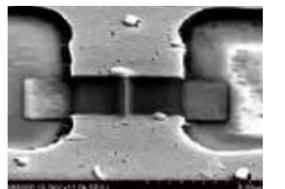
### 先端農業工学分野

EIIRIS で開発されるセンサ・MEMS デバイスを活用した先端農業生産技術を開発します。具体的には、植物工場などの環境制御型植物生産を対象として、植物生体情報に基づいた高度な栽培・労務管理を実現するための植物診断技術 (クロロフィル蛍光、匂い成分、光合成・蒸散の計測) の開発と社会実装を行っています。また、太陽光植物工場技術で世界をリードするオランダの学術界・産業界と緊密に連携し、植物診断技術の世界展開を目指します。



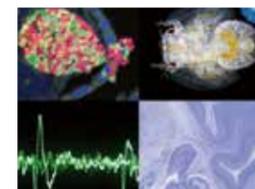
### 先端環境センシング分野

FIB (Focused Ion Beam) など EIIRIS の高性能設備を用いて低ノイズ超伝導ジョセフソン接合を製作する技術を開発し、高感度 SQUID (Superconducting Quantum Interference Device) 磁気センサに適用、非破壊検査や超低磁場 MRI 技術に展開していきます。また、縮小投影露光装置等を用いた高精度パターニングにより、マイクロ波力学インダクタンス検出器 (MKID) などのテラヘルツ光センサの均一化や高感度化を進めていきます。



### 先端生命科学分野

生命のシステムの理解を目指して、生物間相互作用、生体行動、神経活動、遺伝子発現に関わる計測と制御実験を行う。EIIRIS でのセンサ開発との融合研究を通じて、広く社会に応用される革新的なデバイス・ツール開発を目指します。以上を行うための無脊椎動物、げっ歯類、霊長類の実験区域を維持管理し、共同利用研究を促進していきます。



## ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (LSI工場)

高機能インテリジェントセンサを中心とした、センサ/MEMS、信号処理用 IC などの電子デバイスの研究開発施設 (LSI 工場) です。電子線描画装置、1 線ステップなど約 100 台からなる半導体デバイスの設計・製造設備を備えており、設計・シミュレーションから、プロセス (最大φ4 インチ、1.5 μm CMOS、MEMS) ・評価までを一貫して行えます。学内はもとより学外からも半導体デバイス・プロセス教育の場として広く活用されています。 <http://www.vbl.tut.ac.jp/>



## リサーチセンター

### 未来ビークルシティリサーチセンター

低炭素で持続発展可能な未来ビークルシティの創成にむけて、

- (1) 電気自動車が移動手段の主流となる低炭素なビークルシティの研究
- (2) 交通弱者に配慮した安全・安心なビークルシティの研究
- (3) 低炭素化社会を支える省エネルギー技術と新たな社会システムの研究

に挑戦しています。 <http://www.rcfvc.tut.ac.jp/>



### 先端農業・バイオリサーチセンター

複合技術分野における要素技術と人的資源を活用し、持続可能な食料生産に貢献する次世代型農業技術の研究・開発および関連する食農・バイオ・環境分野の高度技術開発に取り組んでいます。

また、地域農業の振興に貢献できる「最先端植物工場マネージャー」、IT 食農先導士、農商工観連携・6次産業化に貢献できる「6次産業化推進人材」の養成を行っています。 <http://www.recab.tut.ac.jp/>



### 安全安心地域共創リサーチセンター

東三河は豊かな自然環境に恵まれる一方、地震や気象災害のリスクが高い地域です。本センターでは、安全で安心して暮らせる地域社会づくりのため、自然災害だけでなく環境や生活に関係する幅広いリスクを低減する研究・技術開発を行っています。また、地域行政・産業界・市民団体等と連携・協働して地域防災力を押し上げ、広域災害に対して粘り強い地域の達成を目指しています。 <http://www.carm.tut.ac.jp/>



### 人間・ロボット共生リサーチセンター

人とロボットとが高度に共存しあい、豊かな生活を享受できる社会を目指して、多様なサービスロボット、歩行訓練や移乗支援を行う福祉・介護ロボット、園芸作物の収穫支援ロボット、知的照明システムなどの研究開発、および〈弱いロボット〉概念に基づく人とロボットとの共生技術、アシスト技術、動作計測技術、コミュニケーション技術、超小型超音波モータ、多指多関節ハンドなどの要素技術の研究開発を行っています。 <http://robot.tut.ac.jp/>



## グローバルネットワーク推進センター

本学の継続的なグローバル化推進のため、国内外の高等教育等機関や学内局との連携及び協力を通じて国際的な教育研究交流活動を支援し、技術科学の国際拠点化を機動的・戦略的に推進することを目的としています。

<https://ignite.tut.ac.jp/portal/>



マレーシア教育拠点



マレーシア教育拠点 講義室

### マレーシア海外拠点

本学の主要な海外拠点として、海外におけるグローバル技術者育成の基盤となる施設を、2013年12月に開設しました。現地大学・企業等と連携し、世界的な視野を持つグローバル技術者の育成に資する活動を行っています。

<https://ignite.tut.ac.jp/cie/penang/>

### スーパーグローバル大学創成事業推進本部 / スーパーグローバル大学推進室

スーパーグローバル大学創成事業推進本部は、スーパーグローバル大学創成支援事業「[グローバル技術科学アーキテクト] 養成キャンパスの創成」を推進するための企画立案等を行い、スーパーグローバル大学推進室は企画の実施を支援します。

<https://www.sgu.tut.ac.jp/>

### 健康支援センター

学生、教職員の心身の健康づくりの支援のため、各種健康診断と事後措置の実施、医師、保健師による医療、健康相談を行っています。さらに、医学的見地から、安全な教育、研究、職場環境の実現に向けて提言、アドバイスをを行うとともに、医学に関する教育、研究を行っています。 <http://www.health.tut.ac.jp/>

### 学生支援センター

学生の成長と学生生活の充実及び円滑化を図るため、カウンセラー (公認心理師・臨床心理士) やキャリアカウンセラー、看護師等が、関係機関と連携・協働しながら、支援が必要な学生のメンタルケア・ヘルスケア、修学、進路・就職及びその他各種相談を行っています。何でも相談窓口が設置され、学生は気軽に立ち寄って相談することができます。

### 情報メディア基盤センター

教育研究用情報システムやキャンパスネットワークなどからなる大学情報基盤を管理・運営して、教育と研究を総合的に支援しています。教育用情報システムは、学内各所の端末室に配置された多数の演習用端末からなり、授業や演習及びレポート作成などに広く利用することができます。研究用クラスタシステムは、多数の演算ノードからなるIntel64 アーキテクチャのクラスタシステムで、大規模なシミュレーション計算を行うことができます。学内の各棟を結ぶキャンパスネットワークは、シャシー型スイッチと2系統の光ファイバによって高い障害耐性を備えています。キャンパス全域で利用できる無線LAN も整備されています。学術情報ネットワークSINETに10Gbpsで接続されており教育・研究を目的とした高速通信が可能です。 <https://imc.tut.ac.jp/>

### IT活用教育センター

情報技術「Information Technology」を活用した教育を実践・普及させるため、授業のデジタルトランスファー (DX) 化の支援、IT を用いた学修の習慣化、および IT 活用教育の質向上を推進しています。本学で開発している遠隔授業は、単にこれまでの授業をネット上に置き換えたものではなく、新しい時代の技術者に必要な問題探求力や問題解決力など「実力」を育てる教育コンテンツです。これらをより効果的に活用してもらうため、遠隔授業サポート窓口を開設しています。さらに、最先端データ科学のものづくり技術への定着促進、全国の高等専門学校と連携した教育の実践、地域社会へのリカレント教育の実施など、「いつでも、どこでも、だれでも」学べるサイバー教育環境を整備し、提供しています。 <https://cite.tut.ac.jp/>

### 教育研究基盤センター

分析支援部門と工作支援部門から構成され、高度大型分析計測機器類及び工作機械類等の各種共同利用機器を集中的に整備・管理・保守し、提供することにより、技術科学に関わる教育・研究の一層の推進・発展を支援しています。

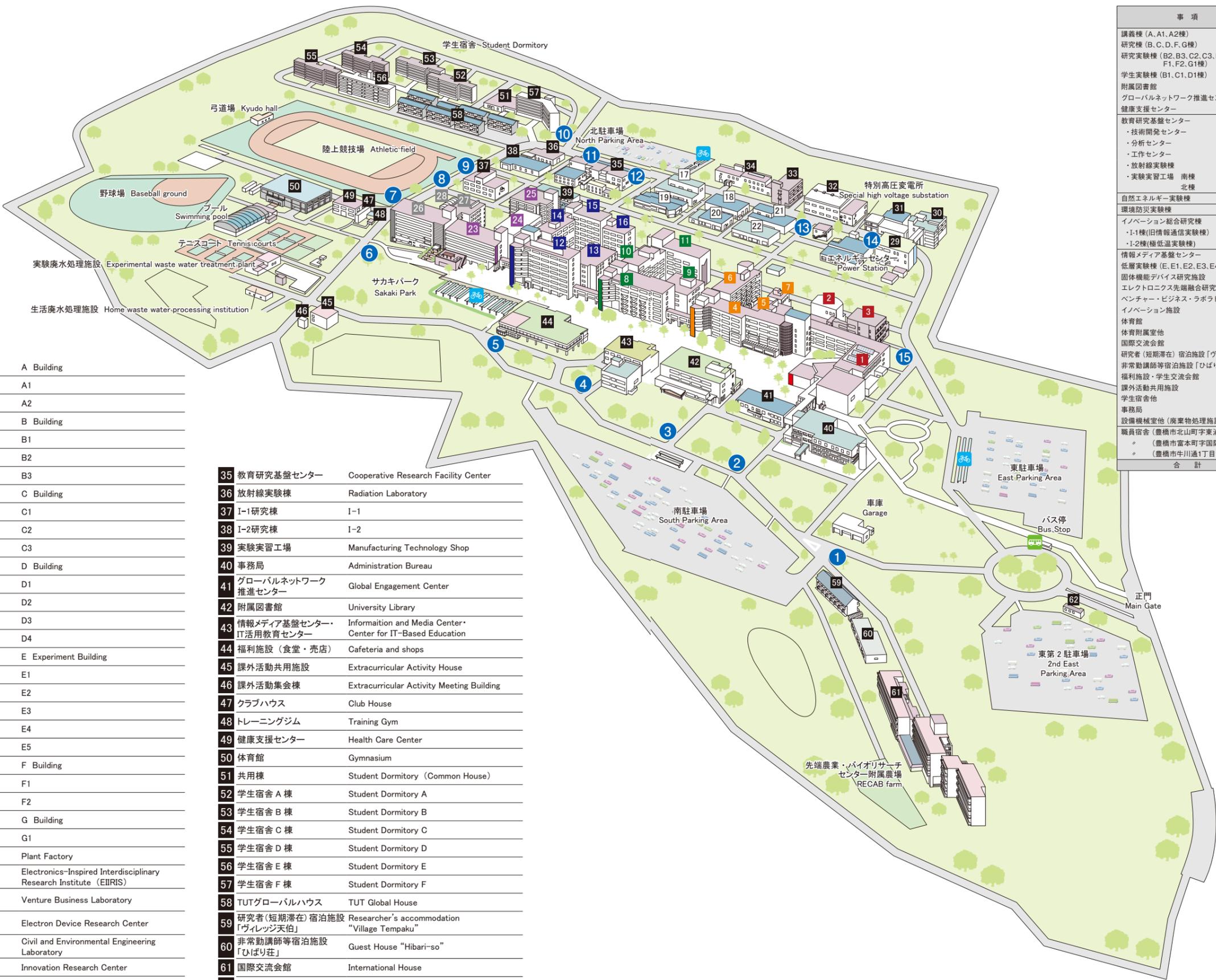
最先端の研究や学生の実験実習教育をはじめとした学内の研究・教育の支援の他に、本センターの設備・機能を広く社会に還元するため、企業の技術者・研究者や高等専門学校・工業高校教員を対象とした技術公開講座を開催しています。附属施設として、実験実習工場を備えています。

<http://www.crfc.tut.ac.jp/>

大学建物等配置

土地及び建物

(2021年5月1日現在)



- 1 A 講義棟 A Building
- 2 A1 講義棟 A1
- 3 A2 講義棟 A2
- 4 B 研究棟 B Building
- 5 B1 学生実験棟 B1
- 6 B2 研究実験棟 B2
- 7 B3 大学院研究実験棟 B3
- 8 C 研究棟 C Building
- 9 C1 学生実験棟 C1
- 10 C2 研究実験棟 C2
- 11 C3 研究実験棟 C3
- 12 D 研究棟 D Building
- 13 D1 学生実験棟 D1
- 14 D2 研究実験棟 D2
- 15 D3 研究実験棟 D3
- 16 D4 大学院研究実験棟 D4
- 17 E 低層実験棟 E Experiment Building
- 18 E1 低層実験棟 E1
- 19 E2 低層実験棟 E2
- 20 E3 低層実験棟 E3
- 21 E4 低層実験棟 E4
- 22 E5 低層実験棟 E5
- 23 F 研究棟 F Building
- 24 F1 研究実験棟 F1
- 25 F2 総合研究実験棟 F2
- 26 G 研究棟 G Building
- 27 G1 研究実験棟 G1
- 28 植物工場 Plant Factory
- 29 エレクトロニクス先端融合研究所 Electronics-Inspired Interdisciplinary Research Institute (EIIRIS)
- 30 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー Venture Business Laboratory
- 31 固体機能デバイス研究施設 Electron Device Research Center
- 32 環境防災実験棟 Civil and Environmental Engineering Laboratory
- 33 イノベーション施設 Innovation Research Center
- 34 自然エネルギー実験棟 Natural Energy Research Laboratory

- 35 教育研究基盤センター Cooperative Research Facility Center
- 36 放射線実験棟 Radiation Laboratory
- 37 I-1 研究棟 I-1
- 38 I-2 研究棟 I-2
- 39 実験実習工場 Manufacturing Technology Shop
- 40 事務局 Administration Bureau
- 41 グローバルネットワーク推進センター Global Engagement Center
- 42 附属図書館 University Library
- 43 情報メディア基盤センター・IT活用教育センター Information and Media Center・Center for IT-Based Education
- 44 福利施設（食堂・売店） Cafeteria and shops
- 45 課外活動共用施設 Extracurricular Activity House
- 46 課外活動集会所 Extracurricular Activity Meeting Building
- 47 クラブハウス Club House
- 48 トレーニングジム Training Gym
- 49 健康支援センター Health Care Center
- 50 体育館 Gymnasium
- 51 共用棟 Student Dormitory (Common House)
- 52 学生宿舎 A 棟 Student Dormitory A
- 53 学生宿舎 B 棟 Student Dormitory B
- 54 学生宿舎 C 棟 Student Dormitory C
- 55 学生宿舎 D 棟 Student Dormitory D
- 56 学生宿舎 E 棟 Student Dormitory E
- 57 学生宿舎 F 棟 Student Dormitory F
- 58 TUTグローバルハウス TUT Global House
- 59 研究者（短期滞在）宿泊施設「ヴィレッジ天伯」 Researcher's accommodation "Village Tempaku"
- 60 非常勤講師等宿泊施設「ひばり荘」 Guest House "Hibari-so"
- 61 国際交流会館 International House
- 62 守衛所 University's Security

事項	土地 (m <sup>2</sup> )	建物 (m <sup>2</sup> )	
		延面積	床面積
講義棟 (A, A1, A2棟)		3,160	6,527
研究棟 (B, C, D, F, G棟)		4,279	22,146
研究実験棟 (B2, B3, C2, C3, D2, D3, D4, F1, F2, G1棟)		4,449	27,274
学生実験棟 (B1, C1, D1棟)		1,573	6,272
附属図書館		1,241	3,062
グローバルネットワーク推進センター		474	911
健康支援センター		259	500
教育研究基盤センター		1,273	2,591
・技術開発センター		307	564
・分析センター		265	351
・工作センター		350	349
・放射線実験棟		765	765
・実験実習工場 南棟		536	536
・実験実習工場 北棟		567	1,050
自然エネルギー実験棟		987	1,249
環境防災実験棟			
イノベーション総合研究棟	355,606	470	1,002
・I-1棟(旧情報通信実験棟)		604	603
・I-2棟(極低温実験棟)	825	1,595	
情報メディア基盤センター	3,314	3,382	
低層実験棟 (E, E1, E2, E3, E4, E5棟)	689	791	
固体機能デバイス研究施設	662	1,569	
エレクトロニクス先端融合研究所	505	1,517	
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	339	1,010	
イノベーション施設	1,529	1,673	
体育館	152	152	
体育附属室	882	2,479	
国際交流会館	185	295	
研究者（短期滞在）宿泊施設「ヴィレッジ天伯」	262	262	
非常勤講師等宿泊施設「ひばり荘」	1,836	2,488	
福利施設・学生交流会館	423	739	
課外活動共用施設	4,318	15,657	
学生宿舎他	1,110	2,510	
事務局	2,041	2,106	
設備機械室他(廃棄物処理施設他)	10,689	1,450	6,850
職員宿舎(豊橋市北山町字東浦1番7)	1,061	175	175
◇(豊橋市富本町字国路10-2)	640	164	164
◇(豊橋市牛川通1丁目17-7)			
合計	367,996	42,420	121,166

- 1 ~ 15 は誘導案内標識
- バス停 Bus Stop
- 駐輪場 Bicycle parking

学生数等の状況

学生の定員及び現員

(2021年5月1日現在)

工学部

(人)

課程	定員				総定員	現員				
	1年次	2年次	3年次	4年次		1年次	2年次	3年次	4年次	計
機械工学課程	20	20	115	115	270	3	16	132	169	320
電気・電子情報工学課程	15	15	95	95	220	4	19	107	110	240
情報・知能工学課程	15	15	95	95	220	4	26	103	116	249
応用化学・生命工学課程	20	20	75	75	190	3	10	58	64	135
建築・都市システム学課程	10	10	60	60	140	3	19	67	83	172
課程未配属	-	-	-	-	-	60	-	-	-	60
計	80	80	440	440	1,040	77	90	467	542	1,176

博士前期課程

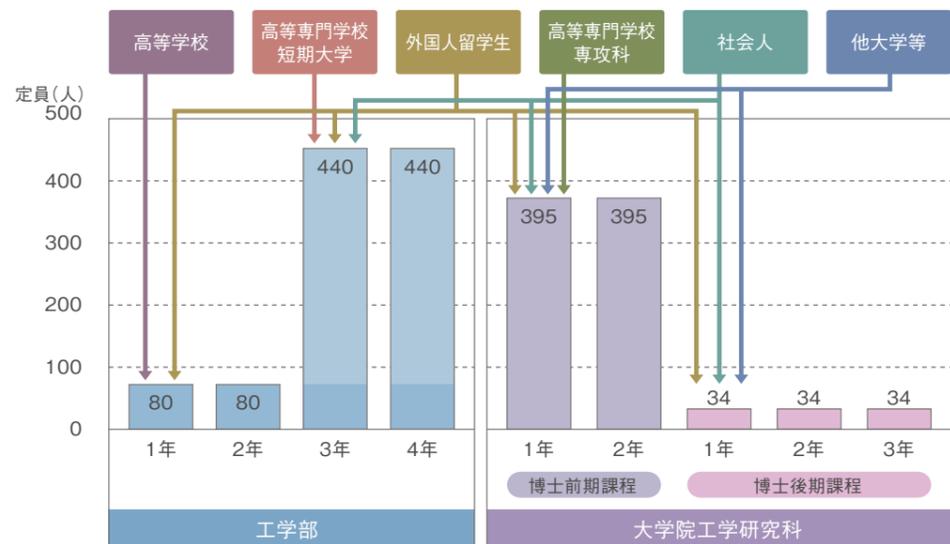
(人)

専攻	定員		総定員	現員		
	1年次	2年次		1年次	2年次	計
機械工学専攻	105	105	210	110	110	220
電気・電子情報工学専攻	85	85	170	77	85	162
情報・知能工学専攻	85	85	170	78	97	175
応用化学・生命工学専攻	65	65	130	43	43	86
建築・都市システム学専攻	55	55	110	57	48	105
計	395	395	790	365	383	748

博士後期課程

(人)

専攻	定員			総定員	現員			
	1年次	2年次	3年次		1年次	2年次	3年次	計
機械工学専攻	8	8	8	24	7	8	16	31
電気・電子情報工学専攻	7	7	7	21	5	4	5	14
情報・知能工学専攻	8	8	8	24	9	7	11	27
応用化学・生命工学専攻	6	6	6	18	1	3	9	13
建築・都市システム学専攻	5	5	5	15	5	5	8	18
計	34	34	34	102	27	27	49	103



出身校所在地別学生数

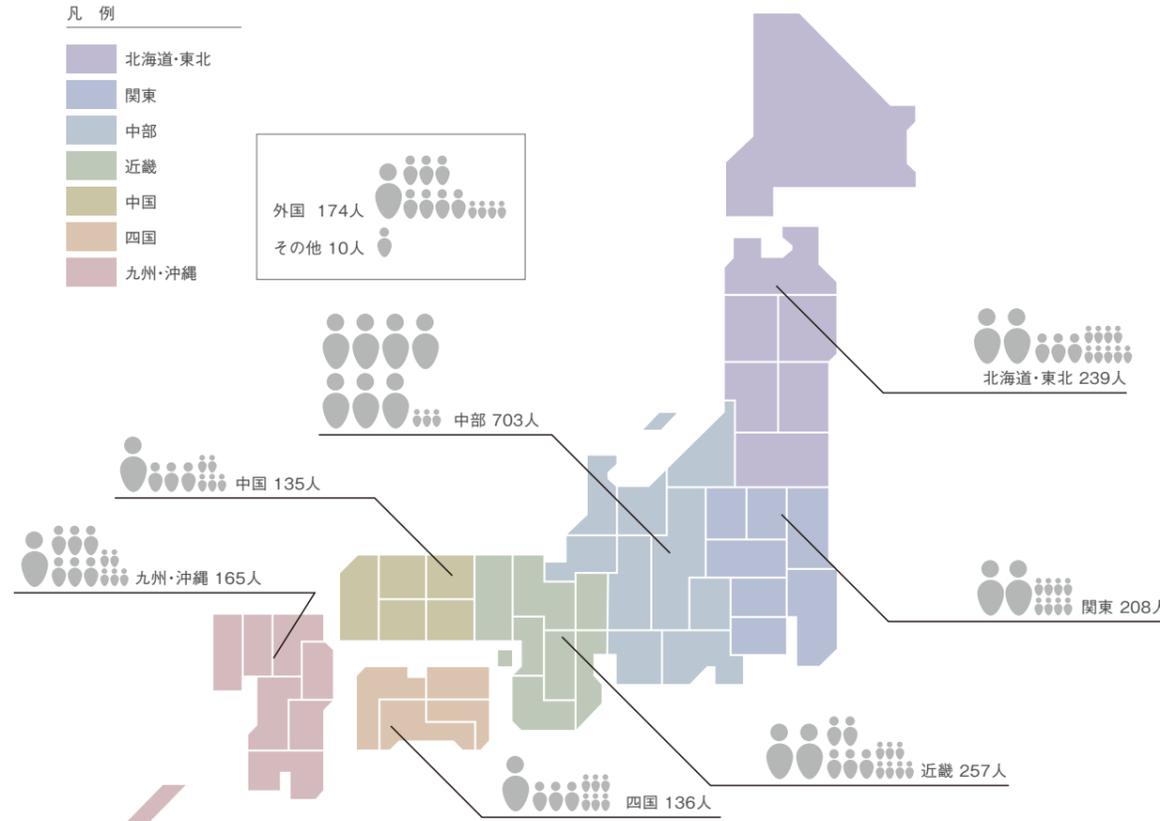
(2021年5月1日現在)

(人)

出身校	都道府県	学部	博士前期課程	博士後期課程	計	出身校	都道府県	学部	博士前期課程	博士後期課程	計	
												北海道・東北
	青森県	12	3	0	15		滋賀県	2	1	0	3	
	岩手県	27	9	1	37		京都府	25	24	0	49	
	宮城県	9	13	0	22		大阪府	18	6	1	25	
	秋田県	7	5	0	12		兵庫県	41	23	0	64	
	山形県	4	5	1	10		奈良県	13	11	1	25	
	福島県	7	4	1	12		和歌山県	17	9	0	26	
	茨城県	26	9	0	35		鳥取県	11	5	1	17	
	栃木県	18	17	2	37		島根県	8	12	2	22	
	群馬県	10	7	1	18		岡山県	16	15	2	33	
	埼玉県	2	0	0	2		広島県	15	15	1	31	
	千葉県	16	10	1	27		山口県	19	12	1	32	
	東京都	46	32	3	81		徳島県	25	12	1	38	
	神奈川県	4	3	1	8		香川県	40	20	1	61	
	新潟県	13	9	2	24		愛媛県	11	10	2	23	
	富山県	8	16	1	25		高知県	8	6	0	14	
	石川県	34	27	0	61		福岡県	35	29	3	67	
	福井県	25	12	0	37		佐賀県	0	0	0	0	
	山梨県	0	0	0	0		長崎県	9	5	1	15	
	長野県	17	20	0	37		熊本県	14	4	1	19	
	岐阜県	27	20	1	48		大分県	6	6	1	13	
	静岡県	66	39	2	107		宮崎県	9	2	1	12	
	愛知県	236	111	17	364		鹿児島県	7	11	0	18	
							沖縄県	11	10	0	21	
							外国	外国	91	40	43	174
							その他	専修学校・高認	9	1	0	10
							合計		1,176	748	103	2,027

凡例

- 北海道・東北
- 関東
- 中部
- 近畿
- 中国
- 四国
- 九州・沖縄



### 優秀学生支援制度

豊かな人間性と国際的視野及び自然と共生する心を持つ実践的創造的かつ指導的な技術科学者の育成を目指し、特に、学業優秀、深い教養及び国際性を備える次世代を先導する人材を確保、養成するため、学部入学から博士後期課程修了までを一貫して支援します。

- ① 学部1年次新入学生支援  
学部第1年次入試における成績優秀な合格者に対し、経済的支援を行います。
- ② 学部3年次推薦入学生支援  
学部第3年次推薦入試出願者のうち、希望者に対し、経済的支援を行います。
- ③ 博士前期課程学内進学者支援  
成績優秀な博士前期課程学内進学者に対し、入学料を免除します。
- ④ 学部及び博士前期課程在学学生支援  
学部及び博士前期課程の成績優秀な学生に対し、表彰するとともに、経済的支援を行います。
- ⑤ 博士後期課程在学学生支援  
博士後期課程において優秀な研究成果が期待できる学生に対し、経済的支援を行います。

### 学位授与者数

区分	2020年度	累計
学士(工学)	440	15,675
修士(工学)	381	12,385
博士工学	課程博士	22
	論文博士	1
計	844	29,121

(人)

### 就職状況

(2021年5月1日現在)

区分	学部					博士前期					博士後期					合計			
	機械工学	電気・電子情報工学	情報知能工学	応用化学・生命工学	建築都市システム学	小計	機械工学	電気・電子情報工学	情報知能工学	応用化学・生命工学	建築都市システム学	小計	機械工学	電気・電子情報工学	情報知能工学		応用化学・生命工学	建築都市システム学	小計
科学研究者	-	-	-	1	-	1	2	2	4	4	1	13	-	2	1	-	-	3	17
農林水産技術者	-	-	-	-	-	0	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	0	1
製造技術者(開発)	8	-	1	-	-	9	62	2	3	3	-	70	-	-	-	-	-	0	79
製造技術者(開発)電気	1	2	-	-	-	3	40	5	3	-	-	48	-	1	-	-	-	1	52
製造技術者(開発)化学	1	-	-	2	-	3	2	2	-	13	-	17	-	-	-	-	-	0	20
製造技術者(開発)その他	2	2	2	-	-	6	4	-	14	1	1	20	-	-	-	-	-	0	26
製造技術者(開発)機械	7	-	-	1	-	8	24	2	-	2	-	28	-	-	-	-	-	0	36
製造技術者(開発)電気	-	3	-	-	-	3	2	22	-	-	-	24	-	-	-	-	-	0	27
製造技術者(開発)化学	-	-	-	-	-	0	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	0	1
製造技術者(開発)その他	-	-	-	-	-	0	-	1	1	5	-	7	-	-	-	-	-	0	7
建築・土木・測量技術者	1	-	-	-	-	12	13	-	-	1	1	45	47	-	-	-	-	0	60
情報処理技術者	-	-	10	-	-	10	2	7	33	1	1	44	-	1	-	-	-	1	55
その他の技術者	2	3	-	-	-	5	3	1	4	7	1	16	-	-	-	-	-	0	21
教員	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	2	1	-	-	-	3	3
大学	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	1	1	3	-	2	-	-	2	8
その他	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
医師・歯科医師・獣医師・薬剤師	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
保健師・助産師・看護師	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
医療技術者	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
医のその他(医療保の)	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
医のその他	-	-	-	-	-	0	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	0	1
美術・写真・音楽・舞台・デザイナー	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
その他	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
管理的職業従事者	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	1
事務従事者	-	-	1	-	-	1	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	0	3
販売従事者	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2	1	3	-	-	-	-	-	0	4
サービス職業従事者	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	0	3
保安職業従事者	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	1
従事者 農林	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
従事者 漁業	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
従事者 農業	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
生産工程従事者	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
輸送・機械運転従事者	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
建設・採掘従事者	-	-	-	-	2	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	0	3
運搬・清掃等従事者	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
上記以外	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	0
合計	24	10	14	5	15	68	101	80	65	48	52	346	3	5	5	0	2	15	429

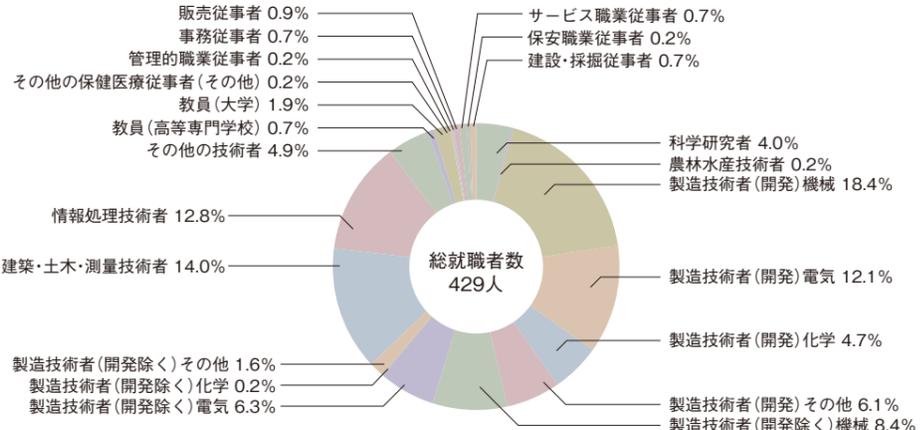
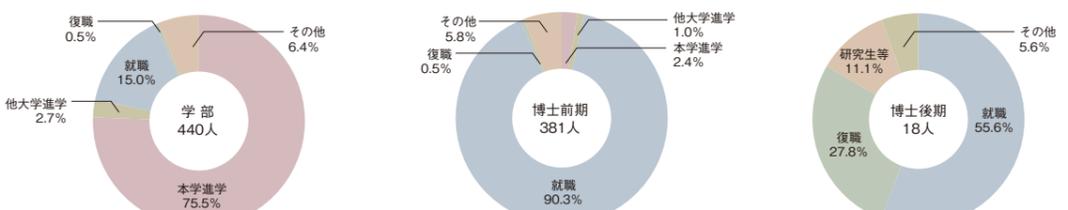
(人)

### 進路状況

(2021年5月1日現在)

専攻・課程	学部										大学院										合計											
	卒業生	進路				修了者	博士前期					修了者	博士後期					卒業・修了者	進路													
		本学	他大学	就職者	復職者		本学	他大学	就職者	復職者	研究生等		その他	本学	他大学	就職者	復職者		研究生等	その他	本学	他大学	就職者	復職者	研究生等	その他						
	学部	131	101	3	23	1	0	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	131	101	3	23	1	0	3
博士前期	86	71	1	10	0	0	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	86	71	1	10	0	0	4	
博士後期	91	72	2	14	0	0	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	91	72	2	14	0	0	3	
合計	60	46	3	4	1	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	46	3	4	1	0	6	
	72	42	3	15	0	0	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72	42	3	15	0	0	12	
合計	440	332	12	66	2	0	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	440	332	12	66	2	0	28	
学部	-	-	-	-	-	-	-	112	2	3	101	0	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	112	2	3	101	0	0	6
博士前期	-	-	-	-	-	-	-	83	2	0	80	0	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	83	2	0	80	0	0	1
博士後期	-	-	-	-	-	-	-	76	5	1	65	0	0	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	76	5	1	65	0	0	5
合計	-	-	-	-	-	-	-	52	0	0	48	0	0	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52	0	0	48	0	0	4
	-	-	-	-	-	-	-	58	0	0	50	2	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	58	0	0	50	2	0	6
合計	-	-	-	-	-	-	-	381	9	4	344	2	0	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	381	9	4	344	2	0	22
学部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0	0	1	2	0	0	3	0	0	1	3	0	0	1	2	0	0	
博士前期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0	0	4	1	0	0	5	0	0	4	5	0	0	4	1	0	0	
博士後期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	0	0	5	0	2	0	7	0	0	5	7	0	0	5	0	2	0	
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0	0	0	2	0	1	3	0	0	2	3	0	0	0	2	0	1	
合計	-	-	-	-	-	-	-	18	0	0	10	5	2	1	18	0	0	10	5	2	1	18	0	0	10	5	2	1				
合計	440	332	12	66	2	0	28	381	9	4	344	2	0	22	18	0	0	10	5	2	1	839	341	16	420	9	2	51				

(人)



就職先 (2020年度)

(株)アートテクノロジー  
(株)IHI  
アイカ工業(株)  
アイシン精機(株)  
アイシン・ソフトウェア(株)  
(株)アイスリーデザイン  
(株)あい設計  
(株)アイセロ  
愛知県庁  
AWL(株)  
アクアインテック(株)  
(株)ACCESS  
(株)アクティオ  
朝日インテック(株)  
旭化成(株)  
(株)朝日工業社  
(株)アスパーク  
アズビル(株)  
(株)アピスト  
アプライドマテリアルズジャパン(株)  
(株)Aphros Queen  
(株)アマダプレスシステム  
(株)アルテス  
(株)アルトナー  
(株)安藤・岡  
石塚硝子(株)  
いであ(株)  
伊藤忠テクノソリューションズ(株)  
イビデン(株)  
今治造船(株)  
(株)インビリティ  
(株)インフィニットループ  
(株)ウエザーニューズ  
(株)VELETA  
H.U.グループホールディングス(株)  
(株)エー・アンド・ティ  
エスエスケイファーズ(株)  
SMC(株)  
SCSK(株)  
NECソリューションイノベータ(株)  
NECネットエスアイ(株)  
(株)NJS  
NDS(株)  
NTN(株)  
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)  
(株)エヌ・ティ・ティ・データ東海  
エヌ・ティ・ティ都市開発ビルサービス(株)  
(株)エヌ・ティ・ティ・ネオメイト  
(株)NTTファシリティアーズ  
(株)NTTファシリティアーズ東海  
(株)NTTフィールドテクノ  
(株)荏原製作所  
(株)FFRRIセキュリティア  
FDK(株)  
(株)I4samurai  
オーエスジー(株)  
大倉工業(株)  
大島商船高等専門学校  
(株)オオバ  
(株)小野測器  
小野谷機工(株)  
(株)オプティム  
(株)OptiTech  
(株)オムロン  
オムロンソーシアルソリューションズ(株)  
(株)オリエンタルコンサルタンツ  
オルガノサイエンス(株)  
花王(株)  
(株)カネカ  
川崎重工業(株)  
川重岐阜エンジニアリング(株)  
川田工業(株)  
関西電力(株)  
関西電力送配電(株)  
キョクシア(株)  
キッセイ薬品工業(株)  
(株)キャタラー  
キヤノン(株)  
キヤノン電子(株)  
(株)京三製作所  
京セラ(株)  
京セラコミュニケーションシステム(株)  
協同特殊鋼線(株)  
(株)協豊製作所

(株)協和エクシオ  
(株)共和レザー(株)  
近鉄不動産(株)  
釧路工業高等専門学校  
クラシスホーム(株)  
(株)クラベ  
(株)クリタス  
グローブシップ(株)  
グローリー(株)  
(株)計測リサーチコンサルタント  
(株)光・彩  
(株)鴻池組  
(株)神戸製鋼所  
(独)国立印刷局  
コニカミノルタ(株)  
小牧市役所  
小松開発工業(株)  
五洋建設(株)  
(一財)材料科学技術振興財団  
(株)SAKURUG  
三栄ハイテックス(株)  
サンスター(株)  
三洋電機(株)  
(株)シーエーシー  
(株)GSユアサ  
(株)ジーニー  
ジェイアール東海情報システム(株)  
(株)ジェイ・エム・エス  
(株)ジェイテクト  
(株)JVCケンウッド  
(株)シエルシステム  
JIG-SAW(株)  
シチズン時計(株)  
(株)七福  
(株)島津製作所  
清水建設(株)  
国立研究開発法人情報通信研究機構  
昭和コンクリート工業(株)  
ショーボンド建設(株)  
(株)新土木開発コンサルタント  
スズキ(株)  
(株)SUBARU  
(株)スプリックス  
住友ケミカルエンジニアリング(株)  
住友電気工業(株)  
住友エレクトロニクス(株)  
住友電気情報システム(株)  
住友電装(株)  
住友ナノフロンティア(株)  
住友パークライト(株)  
積水ハウス(株)  
セノー(株)  
(株)ソシオネクスト  
ソニー(株)  
ソニーグローバルマニファクチャリング&  
オペレーションズ(株)  
ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)  
ソフトブレイン(株)  
(株)オオバ  
ダイキン工業(株)  
大成建設(株)  
(株)タイテック  
大同メタル工業(株)  
(株)大都技研  
Dynabook(株)  
ダイハツ工業(株)  
(株)ダイフク  
太平洋精工(株)  
太平洋セメント(株)  
(株)大洋工作所  
大陽日酸(株)  
大和ハウス工業(株)  
(株)タカギ  
高松建設(株)  
千葉県庁  
中国電力ネットワーク(株)  
中菱エンジニアリング(株)  
dSPACE Japan(株)  
(株)ディスコ  
テイボー(株)  
データアーティスト(株)  
(株)テクノプロ テクノプロR&D社  
(株)テクノ菱和  
デジタル・アドバイジング・コンサルティング(株)

テルモ(株)  
電源開発(株)  
(株)天公システム  
デンソーテクノ(株)  
(株)デンソーファミリアーズ  
東海部品工業(株)  
東海旅客鉄道(株)  
(株)東京ウエルズ  
東京エレクトロン(株)  
東京消防庁  
東京都住宅供給公社  
東京窯業(株)  
(株)東芝  
東芝キャリア(株)  
東芝情報システム(株)  
東芝デバイス&ストレージ(株)  
東邦技術(株)  
東洋エンジニアリング(株)  
東洋建設(株)  
東レ(株)  
TOWA(株)  
鳥取市役所  
鳥羽商船高等専門学校  
トヨタ自動車(株)  
(株)豊田自動織機  
トヨタホーム(株)  
ジェイアール東海情報システム(特任助手)  
トランスコムス(株)  
長岡技術科学大学  
中日本エクスプレス(株)  
中日本建設コンサルタント(株)  
中日本高速道路(株)  
中日本ハイウェイエンジニアリング東京(株)  
NAXA(株)  
名古屋工業大学(助教)  
ナブテスコ(株)  
西日本旅客鉄道(株)  
日亜化学工業(株)  
ニチコン(株)  
日揮グローバル(株)  
(株)日産オートモーティブテクノロジー  
日産自動車(株)  
日新電機(株)  
(株)日水コン  
日東電工(株)  
日本インシュレーション(株)  
日本システムウエア(株)  
日本車輛製造(株)  
日本精工(株)  
日本道路(株)  
日本発條(株)  
(株)ニテック  
日本ガイシ(株)  
日本建設(株)  
日本工営(株)  
日本電産(株)  
日本ハウズイング(株)  
(一財)日本品質保証機構  
日本無線(株)  
(株)ニュージエック  
野原ホールディングス(株)  
(株)ハーモニックドライブ・システムズ  
(株)博報堂アイ・スタジオ  
バンフィックコンサルタンツ(株)  
(株)バフファロー  
パナソニック(株)  
パナソニックエコシステムズ(株)  
パナソニックデバイスSUNX(株)  
(株)汎建製作所  
(株)PR TIMES  
(株)ピーエス三菱  
(株)ピーネックスソリューションズ  
ビジネスエンジニアリング(株)  
日立astemo(株)  
日立金属(株)  
日立建機(株)  
(株)日立情報通信エンジニアリング  
(株)日立製作所  
(株)日立ソリューションズ  
(株)日立ソリューションズ・テクノロジー  
(株)日立ビルシステム  
日野自動車(株)  
(株)ファームシップ  
ファナック(株)

(株)VSN  
(株)フィックスターズ  
(特非)福祉住環境地域センター  
富士工業(株)  
富士ソフト(株)  
富士通(株)  
(株)富士通セネラル  
藤本化学製品(株)  
(株)フジヤマ  
フタバ産業(株)  
(株)不動テトラ  
フューチャー(株)  
プライムアースEVエナジー(株)  
プラスエンジニアリング(株)  
(株)BlueMeme  
古河電気工業(株)  
(株)プレサンスコーポレーション  
ホーユー(株)  
ポッシュ(株)  
本田技研工業(株)  
マイクロンメモリジャパン(合)  
(株)マキタ  
マツダ(株)  
(株)松山建築設計室  
マルハニチロ(株)  
三重県庁  
三井化学(株)  
三菱ケミカル(株)  
三菱自動車工業(株)  
三菱電機(株)  
三菱電機ITソリューションズ(株)  
三菱マテリアル(株)  
ミネベアミツミ(株)  
宮川工機(株)  
宮崎精鋼(株)  
武蔵精密工業(株)  
村田機械(株)  
(株)村田製作所  
(株)メイテック  
(株)メイテックフィルダーズ  
(株)明電舎  
メイラ(株)  
メタウォーター(株)  
(株)メディスサイエンスプランニング  
(株)モビテック  
(株)モルフォ  
(株)モンベル  
矢崎総業(株)  
ヤフー(株)  
ヤマウチ(株)  
ヤマハ(株)  
ヤマハ発動機(株)  
ヤンマーホールディングス(株)  
(株)UACJ  
(株)ユーザーローカル  
(株)ユーザベース  
(株)ユニオンゲートグループ  
ユニチカ(株)  
(有)ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所  
ユニバーサル製缶(株)  
(株)横河システム建築  
(株)ラック  
ラティス・テクノロジー(株)  
(株)LIXIL  
(株)リフドコーポレーション  
リンテック(株)  
レイシスソフトウェアサービス(株)  
レフィクシア(株)  
ローム(株)  
ローランド(株)  
ローランドディー・ジー。(株)  
渡辺電機工業(株)  
ULVAC (SUZHOU) CO., LTD.  
Capital Region Development Authority  
立山オートマシナリー(株)  
University of DARES SALAAM  
Nitto Denko Materials (Malaysia) Sdn. Bhd.  
Hasanuddin University  
バナムン工科大学  
BKR DESIGN OFFICE  
Micron Semiconductor Asia  
Operations Pte Ltd.  
National University of Laos  
Universitas Riau Indonesia

産学官・地域交流

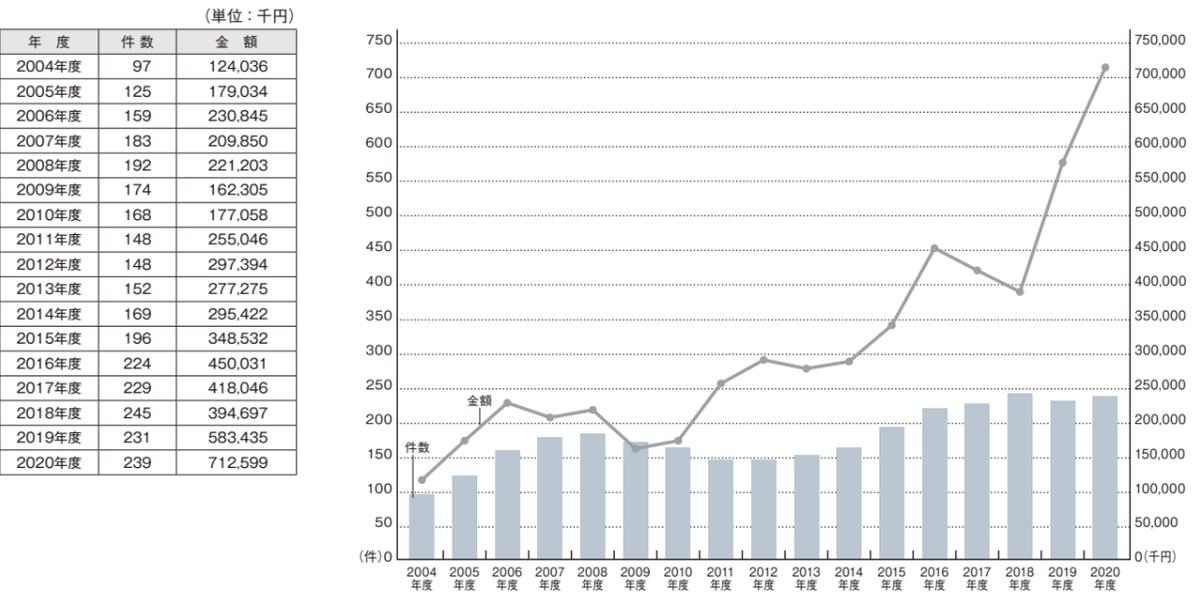
地域社会との交流

社会連携事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国・自治体等との連携 国土交通省中部地方整備局/愛知県/豊橋市/田原市/新城市/飯田市/湖西市/三遠南信地域連携ビジョン推進会議/東三河地域防災協議会/東三河ビジョン協議会</li> <li>■ 地域諸団体等との連携 社会人キャリアアップ連携協議会/東三河広域経済連合会(ものづくり博in東三河)/豊橋商工会議所/豊橋まちなか会議/地域関連研究発表会/東三河生態系ネットワーク協議会</li> <li>■ 大学等との連携 愛知大学/豊橋創造大学/名古屋大学(あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク)</li> <li>■ 市民向け講座の実施 一般公開講座/豊橋市生涯学習市民大学トラム連携講座</li> <li>■ 社会人向け実践教育プログラム https://www.sharen.tut.ac.jp/program/</li> <li>■ 豊橋駅前サテライト・オフィス 大学の知の発信 会議・イベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高校生向け実験・実習講座の実施 Summer TECH-CAMP/時習館高等学校スーパーサイエンスハイスクール及びあいちグローバルハイスクール事業/あいちSTEM事業(知の探究講座)/地域高校生の科学系活動支援のための大学・高校連携事業/東三河・浜松地区高大連携フォーラム(東三河・浜松地区高大連携協議会)/愛知県高等学校文化連盟情報講習会</li> <li>■ 小中学生向け実験・実習、体験講座の実施 Jr.サイエンス講座(子どものための科学展)/青少年のための科学の祭典/豊橋市視聴覚センター企画展/こども未来館「ココニコ」関連事業</li> <li>■ 自治体、高校、小中学校等への講師派遣 依頼機関と学内教員(研究室)・学生団体とのコーディネート/自治体等のイベントへの講師派遣/高校、小中学校等の体験学習・出前講義への講師派遣</li> </ul>
国際交流	<p>本学のASEAN・アフリカを中核とした工学教育のグローバル循環プログラム(博士後期課程・文部科学省採択プログラム)の教育実習と豊橋東高等学校の課題解決型プログラムによる国際的環境における協働・英語運用能力向上を目指したSDGsプロジェクトとの連携による留学生派遣、時習館高等学校が実施するスーパーサイエンスハイスクール(SSH)におけるプレゼンテーション能力向上のための「SS English Assembly」への留学生派遣等、近隣高校との教育連携プログラムにおける交流や地域自治体や国際交流団体のイベントへの留学生の積極的な参加等地域との盛んな交流を行っています。</p> <p>また、グローバルネットワーク推進センター主催の豊橋、豊川、蒲郡、たはら、新城の各国際交流協会との「地域社会と外国人との共生」をテーマとした留学生意見交換会を毎年開催しています。</p>	
技術相談	<p>企業における技術の向上及び研究開発を推進するため、企業の現場で解決を迫られている難問や疑問へのアドバイスを行っています。(豊橋駅前サテライト・オフィスでも実施します。)</p>	
学外機関との連携	<p>産学官交流サロン(東三河懇話会主催)毎月1回</p>	

産学連携

研究連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シンフォニアテクノロジー株式会社</li> <li>● 新東工業株式会社</li> <li>● トビー工業株式会社</li> <li>● オーエスジー株式会社</li> <li>● 国立研究開発法人 物質・材料研究機構</li> <li>● 愛知県</li> <li>● サーラグループ</li> <li>● 本多電子株式会社</li> <li>● 武蔵精密工業株式会社</li> <li>● コベルコ建機株式会社</li> <li>● 一般社団法人日本自動車部品工業会</li> <li>● 医療法人登心会</li> </ul>
教育研究・産学連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 豊橋信用金庫</li> <li>● 浜松信用金庫</li> <li>● 豊川信用金庫</li> <li>● 愛知銀行</li> <li>● 岡崎信用金庫</li> <li>● 日本政策金融公庫</li> <li>● 十六銀行</li> </ul>
教育研究連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国立研究開発法人 物質・材料研究機構</li> </ul>

民間機関等との共同研究の推移 (2004~2020年度)



## 国際交流

### 外国人留学生数

(2021年5月1日現在)

区 分	(人)																										計	
	マレーシア	インドネシア	ベトナム	中国	タイ	フィリピン	インドネシア	ラオス	カンボジア	インド	バングラデシュ	エジプト	フィリピン	メキシコ	タンザニア	大韓民国	ミャンマー	台湾	スリランカ	東ティモール	ペルー	ブラジル	コロンビア	チリ	ザンビア	モロッコ		ルワンダ
学部	機械工学	24	15	10	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	53
	電気電子情報工学	12	3	3	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	23
	情報知能工学	3	1	10	-	1	2	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	22
	応用化学・生命工学	19	5	2	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
	建築・都市システム学	10	18	1	-	1	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35
	未配属	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	小 計	68	42	29	6	2	7	-	1	5	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	166	
博士前期	機械工学	1	3	1	2	2	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	16
	電気電子情報工学	5	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
	情報知能工学	-	1	-	-	3	1	1	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	10
	応用化学・生命工学	5	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
	建築・都市システム学	4	4	1	2	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	22
	小 計	15	9	2	6	7	2	7	5	-	2	-	3	1	-	-	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	64
博士後期	機械工学	-	-	-	1	1	1	-	-	2	-	2	-	3	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
	電気電子情報工学	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
	情報知能工学	-	-	-	6	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
	応用化学・生命工学	2	1	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
	建築・都市システム学	-	-	2	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	13
	小 計	2	1	2	15	2	1	2	1	-	2	4	-	1	3	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45
合計	研究学生	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	
	特別研究学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	特別聴講生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	日本語研修生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	科目等履修生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	合 計	85	52	33	27	12	10	9	7	5	4	4	4	3	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	277

### 海外渡航者数(研究者)

(2019年度)

国名・地域名	人数	%	国名・地域名	人数	%
インド	5	1.5	メキシコ	2	0.6
タイ	9	2.6	ペルー	1	0.3
マレーシア	50	14.5	フィンランド	7	2.0
シンガポール	2	0.6	ノルウェー	4	1.2
インドネシア	23	6.7	デンマーク	1	0.3
フィリピン	4	1.2	アイスランド	2	0.6
香港	2	0.6	イギリス	9	2.6
韓国	22	6.4	ベルギー	5	1.5
モンゴル	11	3.2	オランダ	1	0.3
ベトナム	6	1.7	ドイツ	9	2.6
中国	19	5.5	フランス	16	4.7
カンボジア	2	0.6	スペイン	2	0.6
ラオス	1	0.3	ポルトガル	2	0.6
台湾	3	0.9	イタリア	7	2.0
イスラエル	1	0.3	ギリシャ	5	1.5
カタール	1	0.3	オーストリア	3	0.9
モロッコ	1	0.3	スイス	1	0.3
ルワンダ	1	0.3	ポーランド	3	0.9
オーストラリア	11	3.2	チェコ	4	1.2
ニュージーランド	1	0.3	ハンガリー	2	0.6
カナダ	6	1.7	ロシア	11	3.2
アメリカ	65	18.9	ラトビア	1	0.3
計44カ国(地域含む)				344	

※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、渡航実績がほぼなかったため、2019年度データを掲載しています。

## 外国人研究者受入数

(2019年度)

国名・地域名	インド	バングラデシュ	スリランカ	ミャンマー	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	香港	大韓民国	中華人民共和国	ラオス	エジプト	オーストラリア	アメリカ	メキシコ	フィンランド	オランダ	ドイツ	ポーランド	ルーマニア	ウズベキスタン	カザフスタン	キルギス	タジキスタン	トルクメニスタン	計26カ国
人数	3	1	4	3	1	3	3	3	1	2	4	1	4	1	2	3	1	1	1	1	1	1	2	2	1	2	52
%	5.8	1.9	7.7	5.8	1.9	5.8	5.8	5.8	1.9	3.8	7.7	1.9	7.7	1.9	3.8	5.8	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	3.8	3.8	1.9	3.8		

※本学採用研究者、表敬・視察・特別講演等を除き、共同研究打ち合わせのため来学した研究者数。  
※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、渡航実績がほぼなかったため、2019年度データを掲載しています。

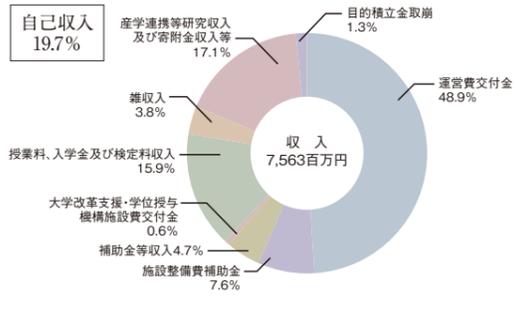
## 大学の財政

### 2021年度予算計画

#### 収 入

(単位:百万円)

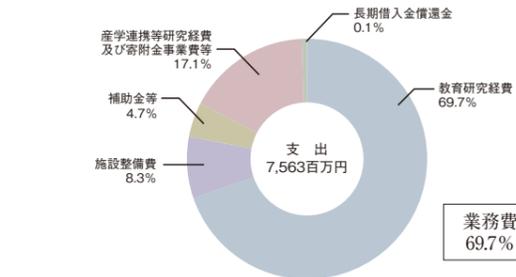
区 分	金 額
運営費交付金	3,696
施設整備費補助金	577
補助金等収入	359
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	47
自己収入	1,493
授業料、入学金及び検定料収入	1,205
雑収入	288
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,294
長期借入金収入	0
目的積立金取崩	97
計	7,563



#### 支 出

(単位:百万円)

区 分	金 額
業務費	5,275
教育研究経費	5,275
施設整備費	624
補助金等	359
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,294
長期借入金償還金	11
計	7,563



### 大学間交流協定締結校

次の大学と大学間交流協定を締結し、学術交流を推進しています。(2021年5月1日現在)

大学/機関名	国名・地域名	締結日	大学/機関名	国名・地域名	締結日	大学/機関名	国名・地域名	締結日
インド工科大学マドラスカ	インド	2017.07.24	安東大学校	大韓民国	2003.06.10	ノルウェー北極圏大学健康科学部	ノルウェー	2016.06.01
インド工科大学デリー校	インド	2018.08.09	新モンゴル学園	モンゴル	2015.10.05	ヨーク大学科学部	イギリス	2018.12.10
インド理科大学	インド	2018.06.26	ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学	ベトナム	2004.12.14	アイトホーフェン工科大学イノベーション科学研究所	オランダ	2012.04.12
チャットゴン大学	バングラデシュ	2013.02.02	ダナン大学・工科大学	ベトナム	2012.04.15	ルール大学ホーフム	ドイツ	2001.08.13
チュラロンコン大学工学部	タイ	2007.01.08	ホーチミン市天然資源環境大学	ベトナム	2014.10.22	ミュンヘン工科大学	ドイツ	2003.11.24
バトワン工科大学	タイ	2013.05.17	フエ医科薬科大学	ベトナム	2016.01.05	シュトゥットガルト大学	ドイツ	2008.12.18
タマサート大学	タイ	2014.08.18	国立土木工科大学	ベトナム	2016.06.20	フランシュ=コンテ大学	フランス	2011.09.29
泰日工業大学	タイ	2014.04.25	ベトナム国家大学ホーチミン市校	ベトナム	2016.09.28	ピエール&マリ・キュリー大学	フランス	2012.11.22
ウボンラチャターニ大学	タイ	2014.04.25	東北大学	中華人民共和国	1996.04.11	フランス国立研究センターパリ高等化学院	フランス	2014.04.10
タイ国立科学技術開発庁	タイ	2014.08.18	北京化学与分子工程学院	中華人民共和国	2016.11.30	ECE・パリ	フランス	2017.02.23
プラバ大学	タイ	2017.01.30	西安交通大学	中華人民共和国	2017.11.02	アミアン電子電気工学技術高等学院	フランス	2018.11.19
マレーシア科学大学	マレーシア	2006.03.25	長安大学	中華人民共和国	2017.12.21	マドリッド工科大学	スペイン	2018.11.30
ワフサンオープン大学及びディステッドカレッジ	マレーシア	2014.12.15	华中科技大学	中華人民共和国	2019.11.29	グラナダ大学	スペイン	2019.03.22
マレーシアヘルリス大学	マレーシア	2019.07.30	ラオス国立大学	ラオス	2015.11.11	カリアリ大学	イタリア	2016.07.08
トゥンフセインオンマレーシア大学	マレーシア	2019.12.01	国立交通大学	台湾	2006.07.20	バドヴァ大学	イタリア	2017.11.21
南洋理工大学	シンガポール	2016.05.27	国立台湾師範大学	台湾	2008.12.19	ブルガリア国立科学アカデミー・有機化学・植物科学研究所	ブルガリア	2016.05.09
パンドン工科大学	インドネシア	1995.12.29	コチ大学	トルコ	2018.06.26	ロモノソフ記念モスクワ国立大学	ロシア	2002.12.16
シャクアラ大学	インドネシア	1997.12.22	アシウト大学	エジプト	2007.05.25	モスクワ物理工科大学	ロシア	2017.03.06
ハサディン大学	インドネシア	2001.05.28	オークランド大学工学部	ニュージーランド	2012.05.25	スコルボ科学技術大学	ロシア	2019.06.17
アンダラス大学	インドネシア	2003.04.30	カリフォルニア大学パークレー校	アメリカ	1981.09.16	ジリナ大学	スロバキア	1999.11.01
北スマトラ大学	インドネシア	2004.10.20	ウィスコンシン大学マディソン校	アメリカ	1985.05.14	ウクライナ国立科学アカデミー食品バイオテクノロジー・ゲノミクス研究所	ウクライナ	2012.11.26
ランボン大学	インドネシア	2006.11.08	ニューヨーク市立大学クイーンズ校	アメリカ	2013.07.29	ウクライナ国立科学アカデミー生物有機化学・石油化学研究所	ウクライナ	2012.11.26
パレンカラヤ大学	インドネシア	2007.12.27	カリフォルニア大学サンディエゴ校	アメリカ	2017.09.13	ウクライナ国立科学アカデミーシステム解析研究所および地球情報・持続型開発ワールドデータセンター	ウクライナ	2012.12.04
タドラコ大学	インドネシア	2011.07.11	ミシガン工科大学	アメリカ	2018.02.12			
ブラウジャヤ大学	インドネシア	2012.10.29	ケンタッキー大学	アメリカ	2018.07.10			
パダン工科大学	インドネシア	2012.10.31	テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター	アメリカ	2018.11.01			
インドネシア国立スラバヤ電子工学ポテクニク	インドネシア	2013.01.04	ニューヨーク市立大学リマンカレッジ	アメリカ	2019.07.01			
イダヤナ大学	インドネシア	2016.12.27	サンディエゴ州立大学	アメリカ	2021.04.25			
プルトミナ大学	インドネシア	2017.10.12	先端素材研究センター	メキシコ	2016.07.11			
ディボネゴロ大学	インドネシア	2019.03.03	国立工科大学高等研究所	メキシコ	2016.10.12			
慶北大学校	大韓民国	1994.04.01	サン・ファン・デル・リオ工科大学	メキシコ	2016.11.09			
国立ソウル科学技術大学校	大韓民国	1997.02.27	ツクマン国立大学	アルゼンチン	2012.06.01			
韓国技術教育大学校	大韓民国	1997.12.30	東フィンランド大学理学及び森林学部	フィンランド	2002.05.21			

### 外部資金の受入状況

(2020年度)

## 大学の広報活動

本学は、公式ウェブサイト、公式SNS、大学広報誌、FMラジオ等様々な媒体を通じ、大学情報の発信を行っています。

### 大学公式ウェブサイト

https://www.tut.ac.jp/ (日本語版)  
https://www.tut.ac.jp/english (英語版)




### 天伯 TEMPAKU 年2回発行

本学の研究やイベント、課外活動などの「ギカダイの今」をお届けする広報誌です。



https://www.tut.ac.jp/tempaku/



### TUT Research 年4回発行

最新の研究成果や取り組みを、日英バイリンガルにて発信している研究広報ウェブマガジンです。



https://www.tut.ac.jp/english/newsletter/



### 大学公式SNS

facebook、Twitter、YouTubeにて、イベント情報や学内風景を随時発信しています。



facebook






Twitter






YouTube




## FMラジオ広報「天伯之城 ギカダイ」

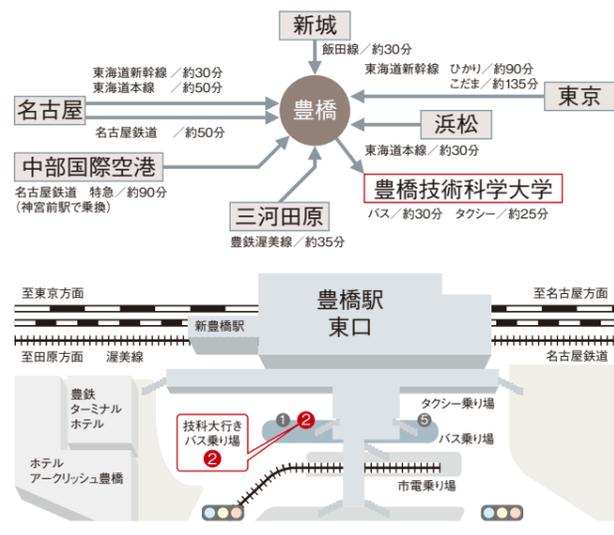
エフエム豊橋 (84.3 MHz) にて毎週土曜日夕方5時過ぎに放送しています。毎週、本学教員の興味深い研究内容や本学の取り組みなどを地域の皆様に向け紹介しています。放送の音声データは、本学ウェブサイトにて聴取可能です。



https://www.tut.ac.jp/castle.html



- 豊橋駅まで**
  - 東海道新幹線 名古屋駅から豊橋駅まで約30分
  - 東京駅から豊橋駅までひかりで約90分
  - こだまで約135分
  - 東海道本線 名古屋駅から豊橋駅まで新快速で約50分
  - 浜松駅から豊橋駅まで約30分
  - 名古屋鉄道 名古屋駅から豊橋駅まで特急で約50分
  - 中部国際空港から豊橋駅まで特急で約90分 (神宮前駅で乗換)
- 豊橋駅より**
  - バス 豊橋駅東口2番のりばから豊鉄バス豊橋技科大線に乗り「技科大前」で下車 所要時間約30分 (片道450円 2021年4月現在)
  - タクシー 豊橋駅前から南へ8.2km 約25分 (豊橋駅～技科大 約3,000円)
- 自家用車にて**
  - 東名高速道路 音羽蒲郡I.C.または豊川I.C.から約1時間
  - 浜松西I.C.から約1時間



### 豊橋周辺の紹介

